

# 専門分野

基礎看護概論 I・II

共通看護技術論 I・II

日常生活援助技術論 I・II・III

ヘルスアセスメント

診療援助技術論 I・II

看護過程論

地域・在宅看護概論 I・II

地域・在宅看護方法論 I・II

成人看護概論

成人看護方法論 I・II・III・IV

老年看護概論

老年看護方法論 I・II

小児看護概論

小児看護方法論 I・II・III

母性看護概論

母性看護方法論 I・II・III

精神看護概論 I・II

精神看護方法論 I・II

看護研究の基礎

看護研究の実際

看護管理と医療安全

災害看護と国際協力

統合技術論

臨地実習

基礎看護学実習 I・II・III

地域・在宅看護論実習

成人看護学実習 I・II

老年看護学実習

小児看護学実習

母性看護学実習

精神看護学実習

統合実習

教 科 目 名	基礎看護概論 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：看護の歴史的変遷を通して、看護の主要概念・理論を捉え、看護の目的・位置づけを理解する。</p> <p>目標：1. 看護の基本となる概念について理解できる。  2. 看護の対象について理解できる。  3. 国民の健康状態と生活について理解できる  4. 職業として看護の歴史的変遷を理解し、今後の看護について展望する。  5. 看護職の資格・養成制度、継続教育・キャリア開発の現状と課題を把握する。  6. 看護と理論の関係性やその必要性について理解できる。</p>
授業の形式	講義 グループワーク
成績評価の方法	筆記試験、レポート、授業中・グループワークの態度も参考にする。
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院  フローレンス・ナイチンゲール著 「看護覚え書」 現代社</p> <p>(参考書)</p> <p>1. 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 スーベルヒロカワ  2. 看護のための人間発達学 医学書院  3. 臨床看護総論 医学書院  4. 超入門事例で学ぶ看護理論 学研  5. ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる 東西社</p>
メッセージ	<p>基礎看護概論は看護学の礎であり、実際的な看護技術を展開する上で根幹となるものであるため、各看護技術論、看護援助論に先行して授業を展開する。基礎看護概論 I は、看護の概念を学び、看護の対象の理解、健康の維持・増進を目的し、日常生活への支援にむけた方法論を学習する基本基盤となる科目です。看護の原点から職業として発展してきた現代看護までの歴史について学び今後、様々な領域の看護学を学び続けるための根源力となる看護に対する思いを培い、看護専門職としての看護観を養って欲しいと思います。</p> <p>授業は、教科書と資料等を中心に進めます。看護を探求してきた先人に習い「看護とは何か」という問に真正面から取り組んでみましょう。本授業と平行して展開される基礎看護技術論、看護援助論の各授業との連動のなかで、看護へ知識や自己の看護観を更に育みましょう。</p>

回	授業主題	授業内容	講師
1 2 3 4	看護の基本となる概念	1 看護の本質 1) 看護の変遷 2) 看護の定義 2 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大 3 看護の継続性と連携	専任教員
5 6	看護の対象の理解	1 人間の「こころ」と「体」を知ることの意味 2 生涯発達しつづける存在としての人間 3 人の暮らしの理解 4 看護の対象としての家族・集団・地域	〃
7 8 9 10	国民の健康状態と生活	1 健康のとらえ方 1) 健康とは何か 2) 健康でない状態 3) 障がいとは何か 4) 健康と生活（暮らしとは） 2 国民の健康状態 1) 国民の健康と全体像 2) 子どもの成長と健康 3) 高齢者と介護 3 国民のライフサイクル 1) 平均寿命と出生 2) 結婚と出産 3) 家族	〃
11 12	看護提供者の理解	1 職業としての看護 1) 歴史的変遷 2) 職業としての新たな展開 2 看護職の資格・養成制度、就業状況 3 看護職者の継続教育とキャリア開発 4 看護職の養成制度の課題	〃
13 14 15	看護理論と看護	1 看護理論の発達背景 2 看護理論活用の実際	〃
	試験		

教 科 目 名	基礎看護概論Ⅱ	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：看護の基本原理を踏まえ、看護者としての役割・機能、職業倫理について理解する。</p> <p>目標：1. 看護活動展開の場と看護の役割について理解できる。 2. 看護サービス管理システムについて理解できる。 3. 看護サービス提供のしくみと看護の機能と業務について理解できる。 4. 医療安全と医療の質保障について理解できる。 5. 看護倫理について基本的な知識を理解できる。</p>
授業の形式	講義 グループワーク
成績評価の方法	筆記試験 学習参加状況も参考にする。
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>1. 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 医学書院 2. よくわかる看護者の倫理綱領 照林社</p> <p>(参考書)</p> <p>1. 伊部 俊子 著 医療倫理学のABC ぴあ出版 2. 医療人権を考える会 ベッドサイドの看護倫理 事例30 日本看護協会出版会 3. バージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 4. 看護倫理 見ているものが違うから起こること 医学書院</p>
メッセージ	<p>既習の基礎看護概論Ⅰと同様に、看護学の共通事項を学ぶ基礎看護学の基本、土台となる教科です。看護の本質は何かを学び、自分が将来実現したい看護についての夢をもち、それを実現する基盤を築き、自らの看護観を構築するための礎になるよう学んでほしいと思います。</p> <p>そのためには自分のありのままを客観視でき、看護師としての自分のありようを職業倫理の視点から考えてみましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1 2	看護サービス提供の場	1. サービスとしての看護 2. 看護サービス提供の場 1) 医療提供施設 2) 医療提供施設以外の看護の場
3 4 5	看護サービス提供のしくみと看護の機能と業務  医療安全と医療の質保障	1. 医療政策 2. 看護をめぐる制度と政策 1) 看護制度 2) 看護政策 3) 看護サービスと経済 4) 看護の人員配置基準、看護サービスの評価 3. 看護サービスの管理、看護管理過程 4. 医療安全と医療の質の保障
6 7	看護における倫理	1. 倫理とは 2. 職業としての看護倫理 1) 職業倫理としての看護倫理 3. 医療職としての倫理 1) 患者の権利 2) 看護倫理をめぐる取り組み 4. 看護者の倫理綱領 1) インフォームド・コンセントとアドボカシー 2) 倫理的意思決定と倫理的ジレンマ
8	学科試験	

教 科 目 名	共通看護技術論 I 【コミュニケーション、安全・安楽】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的；看護の基盤となる看護実践に共通する基礎的知識と技術を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する。</li> <li>2. 対人関係プロセスとしての看護について理解する。</li> <li>3. 看護におけるコミュニケーションの特徴を理解する。</li> <li>4. 看護におけるコミュニケーションスキルを理解する。</li> <li>5. 看護の基本的要素である安全・安楽の意味を理解することができる。</li> <li>6. 安全・安楽を守る技術の種類と基本的技術の構成要素を理解できる。</li> <li>7. 安全・安楽を守る技術を習得できる。</li> </ol>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と授業、演習を展開する。
成績評価の方法	<p>授業出席時間、試験</p> <p>* 課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 I」 基礎看護学【2】 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 II」 基礎看護学【3】 医学書院</p> <p>看護がみえる①基礎看護技術 メディックメディカ</p>
メッセージ	<p>看護の基盤となり、共通的な看護技術であるコミュニケーションと安全・安楽について、早期に位置づけ、以後の基礎看護技術論での学習に連動させていきます。</p> <p>人間は自らのからだを使って、他者とのつながりを求めて生活する存在であり、他者とのつながり無しでは生きられない宿命にあります。その成長発達の過程で、さまざまな人との出会いや関わりを通して、より豊かな人間関係を育み、それは、人間としての個人を成熟させていく力となります。この人間関係を育む基盤となるのがコミュニケーションなのです。看護の対象は人間であり、コミュニケーション無しには看護は成立しません。看護におけるコミュニケーションは、対象の存在そのものに敬意を払い、相手を受け入れ、共にある存在として心を通わせる関係を培う重要な手段です。「コミュニケーション」では、人間対人間の関係性の基盤となるコミュニケーションについて理解を深めるとともに、看護におけるコミュニケーションの意義や目的、特徴、さらに意図的なコミュニケーションの具体的な方法について学習します。</p> <p>また、現在の医療現場における安全管理は、患者の権利の高まりとともに大変重要な要素となっています。その患者のニーズの変化に伴い、看護においても安全や安楽に求められる役割は大きくなってきています。そのことを踏まえて、看護の基本的要素である安全・安楽の意義とその具体的な活用方法を学習します。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	コミュニケーションの意義と目的	1. コミュニケーションとは 2. 医療におけるコミュニケーション	専任教員
2	コミュニケーションの構成要素と成立過程	1. コミュニケーション手段 2. 構成要素と成立過程	
3	関係構築のためのコミュニケーションの基本	1. 接近的コミュニケーションの原理 2. 接近的行動と非接近的行動	
4	効果的なコミュニケーションの実践	1. 傾聴の技術 2. 情報収集の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス	
5 6 (0.5)	コミュニケーション障害への対応	1. コミュニケーションに障害がある人の特徴 2. 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3. コミュニケーションに障害がある人への対応	
7 8	安全確保の技術	1. 安全確保の基礎知識 2. 事故防止対策 1) 誤薬防止 2) チューブ類の予定外抜去防止 3) 患者誤認防止 4) 転倒・転落防止 5) 薬剤・放射線暴露の防止	
9	苦痛の緩和・安楽確保の技術	1. 体位保持(ポジショニング) 2. 援助の実践	
10		1. 罨法 ・冷罨法 ・温罨法	
11		1. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 2. リラクゼーション法、タッチング(演習)	
※ 12 13 14	感染防止の技術	1. 感染と感染予防策の基礎知識 2. 感染予防における看護師の責務と役割 3. 感染経路への対策	非常勤講師
15	感染防止の技術の実践	1. 滅菌物の取り扱い 2. 無菌操作	専任教員
	学科試験		

※12～14 回目は外部講師による講義となる。

教 科 目 名	共通看護技術論 I (感染看護)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 6 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：看護の基礎となる看護実践に共通する基礎的知識と技術を習得する。 感染から患者、家族を守るとともに医療従事者として自己を守るための知識を習得する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準予防策について理解する。</li> <li>2. 手指衛生の重要性を理解し、実践方法を習得する。</li> <li>3. 経路別予防策について理解する。</li> <li>4. 医療器材の洗浄・消毒・滅菌について理解する。</li> <li>5. 職業感染予防策（ワクチン接種、血液・体液曝露対策）について理解する。</li> <li>6. 病原体別感染予防策が理解できる。</li> </ol>
授業の形式	1. パワーポイントと資料を用い授業を展開する。
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業出席時間</li> <li>2. 試験</li> </ol>
教科書・参考書	系統看護学講座「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学③ 医学書院
メッセージ	近年、医療において感染対策の重要性は非常に高まっています。背景には、医療制度や患者の感染対策へのニーズ、医療訴訟、輸入感染症の増加等があげられます。今後医療職として勤務するために、感染対策の基本を習得することは必須であり、患者のみならず自己を守ることに繋がります。講義の中で正しい手指衛生、標準予防策等々を学習します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	標準予防策 手指衛生	標準予防策について基本と看護場面を想定し理解する 手指衛生の方法と実施のタイミングについて看護場面を想定し理解する	非常勤講師
2	洗浄・消毒・滅菌	洗浄・消毒・滅菌の基本を理解する。	〃
3	経路別予防策 病原体別感染予防策 職業感染予防策	経路別予防策の基本的考え方と病原体別にその対策を当てはめ理解する。 職業感染予防策の基本とその予防のために医療者として何をすべきか理解する。	〃



教科目名	共通看護技術論Ⅱ (看護の展開方法)	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担当者	専任教員	講義学年・学期	1 年次・中期～後期

学習目標	<p>目的：問題解決思考を踏まえた看護の展開方法を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における問題解決過程を理解する。</li> <li>2. 看護過程の一連のプロセスを理解する。</li> <li>3. ヘンダーソンのニード論による対象理解の方法を学ぶ。</li> <li>4. 事例を用いて看護の展開方法の実際を学ぶ。</li> </ol>
授業の形式	教科書を用いて授業、課題学習と演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、筆記試験（小テスト）、事例展開は評価基準に基づく評価
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」基礎看護学【2】医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ 超入門「事例で学ぶ看護理論」学研
メッセージ	<p>看護は、人間の普遍的なニーズにこたえ、人々の健康な生活実現に貢献することを使命としています。その看護においては、個人の身体的・精神的・社会的な健康状態において、それぞれがどのように影響し合っているのか、よい健康状態を維持するために、どの部分に働きかけると良いのかを考える必要があります。その考える一連の思考過程が看護過程になります。看護過程は、問題解決法を応用した思考過程の筋道であり、対象に必要な看護を見極め、提供するための手段・方法論（道具）です。この道具を使いこなすためには、道標となるものがが必要です。その道標が看護理論であり、これによって科学的根拠に裏付けされた看護実践となります。</p> <p>この科目では、看護を展開するための理論の必要性や、ヘンダーソンの考える対象理解の方法について基礎的知識を学習します。また、根拠に基づいた実践を導く思考のプロセスを学習します。基礎看護学概論や基礎看護技術の学習を踏まえて、看護の展開に必要な科学的思考の基本を学習し、基礎看護学実習との連動を活かした学習展開となっています。</p>

回	授業主題	授業内容	講師
1	看護の展開方法を学ぶための基礎知識	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素 3. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	専任教員
2	ヘンダーソンの看護論	1. ヘンダーソンの看護論とは 2. ヘンダーソンの看護論と看護過程 ・情報収集の枠組み ・アセスメントの視点 ・看護診断（問題の明確化） ・計画立案 ・実施と評価	
3	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程展開の実際	【第1段階】 情報収集/整理・分類/分析・解釈	
4		・情報の整理とアセスメント	
5		グループワーク①	
6		【第2段階】 全体像の描写/問題の明確化	
7		・全体像の描写と問題の明確化 グループワーク②	
8	成果の共有	グループ発表と質疑応答	
9		【第3段階】 看護計画の立案	
10		・計画の立案 グループワーク③	
11	成果の共有	グループ発表と質疑応答	
12		【第4・5段階】 実施と評価	
13		・計画の評価 グループワーク④	
14	看護過程のまとめ	1. 看護過程展開の総まとめ 小テスト	
15	看護過程における記録	1. 看護過程における記録の意義 2. 記録の具体的方法	

教 科 目 名	日常生活援助技術論 I 【環境、活動・休息】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次・前期

学習目標	<p>生活者である人間の健康を支援する看護の役割として、環境の調整は基盤となるものであり、活動・休息の援助を実践する上においても環境の理解が大変重要である。生理的欲求のひとつである活動と休息のニーズを満たすためにも、環境との関連を踏まえながら学習できるよう 1 年前期の同時期の学習展開とする。</p> <p>目的；日常生活を整える看護実践のための基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における環境の意義を理解する。</li> <li>2. 療養環境調整の意義と目的を理解する。</li> <li>3. 健康生活のための環境調整の視点と、援助の場に応じた居住環境について理解する。</li> <li>4. 療養環境調整のための具体的方法を習得する。</li> <li>5. 運動と活動の意義とそれらを行う身体のしくみを理解する。</li> <li>6. 日常生活における運動・活動の援助方法を習得する。</li> <li>7. 休息と睡眠の意義を理解し、そのアセスメントの視点と援助方法について理解する。</li> </ol>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を展開する。
成績評価の方法	<p>授業出席時間、試験</p> <p>* 課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 II」基礎看護学【3】 医学書院</p> <p>看護がみえる①基礎看護技術 メディックメディカ</p> <p>解剖生理学「人体の構造と機能1」 医学書院</p>
メッセージ	<p>環境は、看護の主要概念のひとつであり、人間ならびに健康との関連においても双方が分離できない一体系として捉える必要があります。彼の F. ナイチンゲールも病人の自然治癒力を高めるための手段の一つとして、環境を整えることが看護実践において重要であるという考えを述べています。私たち看護者が環境を整えることは、患者の健康を維持・回復へと導き、またはその人らしく存在する環境を提供することができるという可能性を秘めているのです。また活動することや休息は人間の生理的ニーズのひとつであり、この欲求を充足できるような環境を整えていくことも看護の重要な役割です。</p> <p>この科目では、基礎看護学概論での人間と環境、環境と健康、健康を目標とした看護という手段、この看護の主要概念の学習を踏まえながら、環境が人間に及ぼす影響について理解を深めながら、その環境調整の必要性和重要性を認識した上で、療養環境調整の技術を習得します。またその知識と連動して、活動と休息へのアプローチの方法についても学習していきます。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	療養生活の環境	1. 環境の概念 2. 看護における環境の意義 3. 療養生活環境の意義	専任教員
2	療養環境とその調整の視点	1. 病室環境整備の目的 2. 健康生活と居住環境	
3	病室環境調整の具体的要素	1. 光環境 2. 空気とにおい環境 3. 音環境 4. 室内気候と寢床環境	
4	快適な寢床の提供 －環境調整の援助技術－	1. 環境のアセスメント	
5		2. 病室の環境整備	
6		3. ベッドメイキングの方法	
7		4. 臥床患者のリネン交換	
8	基本的活動の基礎知識	1. 活動・運動の意義 2. 活動のアセスメント	〃
9	活動・運動の援助	1. 運動機能の維持・回復のための援助 1) 廃用症候群の予防 2) 関節可動域訓練	
10		1. 基本的活動の援助 2. 体位 3. ボディメカニクス	
11		1. ボディメカニクスの活用 2. 体位変換・床上移動（演習）	
12		1. 座位保持・起立動作の援助 2. 車椅子への移動と移送（演習）	
13		1. ストレッチャーへの移動と移送（演習） 2. 歩行の援助	
14		睡眠・休息の援助の基礎知識	
15 (0.5)	睡眠・休息の援助	2. 休息・睡眠の生理学的メカニズム 3. 睡眠障害のアセスメント 4. 休息・睡眠の援助	
	学科試験		

教 科 目 名	日常生活援助技術論Ⅱ 【清潔・衣生活】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期～中期

学習目標	<p>目的：日常生活（清潔・衣生活）を整える看護実践のための基礎知識と援助方法を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 清潔や衣服の意義と看護の役割を理解する。</li> <li>2. 清潔ニーズのアセスメントの視点を理解する。</li> <li>3. 清潔と寝衣交換の援助方法を習得する。</li> </ol>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	<p>授業出席時間、試験</p> <p>*課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院</p> <p>看護がみえる ①基礎看護技術 メディックメディカ</p> <p>解剖生理学「人体の構造と機能1」医学書院</p>
メッセージ	<p>日常生活を整える看護技術として、人間がその人らしく生きるために、援助を必要としている人の生活を整え、その人の持てる力を発揮できる支援を看護の観点から考えながら、その人に適した清潔援助方法を理論と実践を統合して学習します。</p> <p>日々の生活の中で身体を清潔に保つことは人間の基本的なニーズであるとともに、皮膚・粘膜の機能を良好に保持し、その機能を高めるという生理的な側面や、気持ちがさっぱりとして爽やかな気分がもたらされる精神的側面の効果などがあります。精神的側面の効果は、よりよい対人関係を育むことに繋がり、社会性にも影響しています。よって皮膚の清潔や衣服の選択などは、病気や障害をもつ人にとっては、その目的・意義が大きいといえるでしょう。</p> <p>また、清潔の援助は対象と看護者が密接に関わることが多い看護技術のひとつであり、その援助を通して信頼関係を育むことに繋がります。この科目では対象にとってよりよい清潔・衣生活の援助の基礎知識と技術を多くの演習を通して学習していきます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	身体の清潔を保つための援助の必要性	1. 清潔援助の基礎知識 ・皮膚、粘膜の構造と機能 ・清潔援助の効果 ・患者の状態に応じた援助の決定と留意点	専任教員
2		1. 病床での衣生活の援助 ・衣服を用いることの意義 ・衣生活のアセスメント ・病衣の選び方	
3	身体の清潔を保つための各援助の基礎知識と実際	1. 寝衣交換 ・和式寝衣 ・寝衣（セパレートタイプ） （ワンピースタイプ） ・かぶりのパジャマ 2. 寝衣交換（演習）	
4		1. 入浴・シャワー浴の意義と方法	
5		1. 全身清拭の意義と方法	
6		2. 全身清拭の実際（演習）	
7			
8		1. 洗髪の意義と方法	
9		2. 洗髪の実際（演習）	
10		1. 陰部洗浄の意義と方法	
11		2. おむつ交換の方法 3. 陰部洗浄・おむつ交換の実際（演習）	
12		1. 足浴・手浴の意義と方法	
13		2. 足浴・手浴の実際（演習）	
14		1. 口腔ケアの意義と方法 2. 口腔ケアの実際（演習）	
15 (0.5)		1. 整容の意義と方法	専任教員
	学科試験		

教 科 目 名	日常生活援助技術論Ⅲ 【食生活・排泄】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期～中期

キーワード	食事と健康生活 栄養のアセスメント(栄養素と栄養所要量、水分出納バランス) 経口栄養(特別食と一般食)と非経口栄養(経腸栄養と静脈栄養) 消化・吸収と排泄のメカニズム 排泄に関するアセスメント 導尿 浣腸 尿・便器 おむつ,
学習目標 (授業の位置づけ)	人間にとっての食と排泄という行動は、生命を維持するために重要な役割を果たしている。この関連の深い食と排泄について、人体の構造と機能を踏まえた運動性のある授業展開をしていく。 目的；日常生活（食生活・排泄）を整える看護実践のための基礎的知識と技術を習得する。 目標 1. 食事と排泄の意義を理解する。 2. 食事と排泄に関連する要因を理解する。 3. 健康を維持・回復するための食事ならびに排泄の援助方法について理解する。 4. 食事ならびに排泄援助の基本技術を習得する。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 * 課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディカ 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディカ 解剖生理学「人体の構造と機能1」 医学書院 栄養学「人体の構造と機能3」 医学書院
メッセージ	生命を維持するために必要な栄養は消化吸収を経て、排泄までのプロセスをたどりますが、この一連の機能によって人間の健康は維持されているといえます。日々の生活の中で、人間の行動のエネルギーとなる食生活の意義は現代社会において、健康の視点からの重要性が高まっています。この科目では、ただ単に食べるではなく、食が人間に与える影響を健康というキーワードを基に学習し、食事が体内に取り込まれ、必要なものとして使われた後、排泄されるまでの一連のプロセスを既習の学習を基に想起しながら、その具体的な援助方法についてのアセスメントの視点や技術を多くの演習を通して習得します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	食事の意義と栄養摂取	1. 食事の意義と目的 2. 食事と健康の関係性	専任教員
2	健康な食生活	1. 食事、栄養とは 2. 食欲と食行動 3. 健康と食生活	
3	食事のメカニズム	1. 食事に関する身体機能 1) 摂食と嚥下 2) 消化・吸収のメカニズム	
4	食事のアセスメント	1. 栄養状態 2. 水分・電解質バランス 3. 食欲 4. 食事動作(嚥下、姿勢、動作)	
5	食事の援助技術	1. 健康障害と食生活	
6	* 技術演習	2. 食生活への援助(演習) 1. 食事摂取の介助(演習)	
7	非経口的栄養摂取の援助	1. 経管栄養法(演習) 2. 中心静脈栄養法	
8	排泄の意義とメカニズム	1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム	〃
9	排泄のアセスメント	1. 排尿のアセスメント	
10		2. 排便のアセスメント	
11	排泄の援助技術	1. 尿器・便器、おむつの援助法	
12	* 技術演習	2. 導尿	
13			
14		3. 浣腸	
15 (0.5)			
	学科試験		



教 科 目 名	ヘルスアセスメント	単位数 (時間数)	1 単位 (30時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期～後期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的；看護者としてのヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、アセスメントに必要な基礎的知識と技術の実際を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスアセスメントの概念について理解する。</li> <li>2. フィジカルアセスメントの意義と重要性について理解する。</li> <li>3. 身体各部の観察方法について理解する。</li> <li>4. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法を習得する。</li> </ol>
授業の形式	教科書を中心に講義、課題学習ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	<p>授業出席時間、試験</p> <p>* 課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 I」基礎看護学【2】 医学書院</p> <p>看護がみえる③ フィジカルアセスメント メディックメディカ</p> <p>解剖生理学「人体の構造と機能1」医学書院</p>
メッセージ	<p>人間の健康は様々な要因と、そしてそれらに対する個人の免疫力・適応力によって左右されています。よって、看護の対象が健康であるのか否かを査定するには、個人とその個人を取り巻く環境をも多角的に捉えていく必要があります。このことから個々の健康をサポートする看護活動は、ヘルスアセスメントから始まり、この活動は絶えず行われるべきものであり、最も基本的かつ重要な看護技術であるといえます。対象の健康状態を形態・機能的側面から見極めていくためには、知識や観察力、判断力が必要とされます。</p> <p>この科目においては、その中でも観察の重要性を意識して、自分の眼でみて(視診)、手で触れて(触診)、時には聴診器を使って呼吸音や心音、腸音を聴いて(聴診)みて、さらに問診を通して必要な情報を確認することによって、対象の身体的・心理的・社会的側面を統合的にアセスメントする方法を学習します。特に生命の兆候とされるバイタルサイン(体温、脈拍、血圧、呼吸、意識状態)の測定方法については、多くの演習を取り入れ、実践で活用できる技術を正確かつ確実に習得することを目標とします。</p> <p>また、看護実践においてはチームでの情報共有が重要です。この科目では観察を通して得られた情報や判断した内容を報告する意義やその方法についても学習します。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	ヘルスアセスメントとは	1. ヘルスアセスメントの意義と目的 2. 看護における観察とは 3. セルフケア能力のアセスメント	専任教員
2 3 4 5	観察をするために必要な技術	1. バイタルサインの観察 (体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態) (課題提出あり)	
6	血圧測定 【演習】	1. 血圧測定演習 (課題提出あり)	
7	フィジカルアセスメントの意味	1. フィジカルアセスメントに必要な根拠 (課題提出あり)	
8	バイタルサイン測定の手順書作り	1. バイタルサインの変動因子を考慮し測定時の手順書を作成 (課題提出あり)	
9	バイタルサインの異常	1. バイタルサインの異常と想定外の対応 2. 観察内容の報告	
10	バイタルサイン測定の手順書作り 【1H】	1. 8回目の提出課題へのアドバイス 2. バイタルサイン測定(呼吸・脈拍・血圧・体温)とアセスメント	
11	バイタルサイン測定 【演習】	1. バイタルサインの一連の流れを根拠に基づいて行う	
12	身体計測	1. 身長 2. 体重 3. 腹囲 4. 胸囲	
13	フィジカルアセスメント	1. 問診・視診・打診・聴診・触診	
14	身体計測 【演習】	1. 腹囲・膝高・身長・体重計測・全身の動脈触知等 2. 打診 3. 下肢の血圧測定	
15	心理社会的アセスメント	1. 心理的側面のアセスメント 2. 社会的側面のアセスメント	
	学科試験		

教 科 目 名	診療援助技術論 I 【診察・検査、救急法】	単位数（時間数）	1 単位（15時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・前期

学習目標	<p>目的； 診察・検査、救急法における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する。</p> <p>目標1. 血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。</p> <p>2. 生体情報のモニタリングの意識と看護の役割を理解する。</p> <p>3. 心電図検査、心電図モニター、S po<sub>2</sub>モニター、血管留置カテーテルモニターについて理解し、看護の実際を学ぶ。</p> <p>4. 診察の介助の目的を理解する。</p> <p>5. 胃洗浄、膀胱洗浄の方法と実施の留意点を学ぶ。</p> <p>6. 救急法の基礎知識を理解する。</p> <p>7. 気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫の方法と留意点を学ぶ。</p> <p>8. AEDを用いた除細動のしかたを学ぶ</p> <p>9. 止血法の種類とその方法について学ぶ。</p>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 *授業参加態度・課題を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 II」 基礎看護学【3】 医学書院 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディカ
メッセージ	<p>検体検査や生体情報のモニタリングは、原則として医師の指示に基づいて行われ、得られた情報は、医師による健康状態の判断・疾病の診断・治療方針の選択・治療効果の確認のために利用される。看護師は、適切な方法によって検体採取をし、生体情報のモニタリングをするとともに、異常の早期発見を行い、医師に報告する。</p> <p>また、診察・検査を受ける患者には、大きな不安や苦痛が生じることが予測されます。医療現場の臨床検査部門では多くの関連職種がチームとして協働していますが、看護師はその患者の最も身近な存在となるため、患者の不安や苦痛を取り除き、診察・検査がスムーズに行えるよう援助し、体への侵襲が大きい検査などでは、もとの生活に復帰できるような援助が求められることとなります。医療現場のなかで有病者に最も近く存在する看護師には、救命救急の処置を必要とする患者に遭遇する機会が他の職種よりも多いと思われ、迅速で適切な対応が求められます。これらの援助においては、患者やその家族への精神的側面への配慮も必要となるため、説明や指導技術も視野に入れた看護の役割を学習していきます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1 2	症状・生体機能管理 技術	4. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 5. 検体検査 (ア)尿検査 (イ)便検査 (ウ)喀痰検査 6. 生体情報のモニタリング (ア)心電図検査 (イ)心電図モニター (ウ)パルスオキシメーター	専任教員
3       4	診察・検査・処置の 介助技術	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 1) X線撮影 2) コンピュータ断層撮影(CT) 3) 磁気共鳴画像(MRI) 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 肺機能検査 7) 核医学検査 8) 穿刺  2. 洗浄 1) 胃洗浄 2) 膀胱洗浄	〃
5 6 7	救急法	1. 救命救急処置の基礎知識 1) 応急手当の重要性 2. 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置の基礎知識 3) 小児・乳児の心肺蘇生 4) 二次救命処置について 5) 異物除去法 3. 止血法	非常勤講師
8	学科試験		

教 科 目 名	診療援助技術論Ⅱ【治療・処置】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次・前期～中期

キーワード	1. 吸入法、吸引法、酸素吸入療法、与薬技術、輸血、採血、包帯法
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>診療援助技術論Ⅰとの関連を活かし、現在の看護師に求められる治療・処置に関する技術の習得に向け、2年次早期からの授業展開とし、実習との関連のなかで効果的な学習に繋げる。</p> <p>目的；治療・処置における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する。</p> <p>目標1. 治療・処置における看護の役割を理解する。  2. 呼吸管理に必要な知識と技術を理解する。  3. 薬物療法の意義と目的を理解する。  4. 各種与薬に関する方法と留意点を学ぶ。  5. 注射に関する基本的事項を学ぶ。  6. 各種注射法とその留意点を学ぶ。  7. 輸血の基本的事項を学ぶ。  8. 静脈血採血の方法を学ぶ。  9. 包帯法の基礎知識を理解する。</p>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	<p>授業出席時間、試験、課題レポート</p> <p>* 授業参加態度・課題を評価に含む場合もある。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院</p> <p>看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディカ</p> <p>看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディカ</p>
メッセージ	<p>与薬は、医師により患者の治療方針が決定され、医師の指示に基づいた薬物が安全かつ確実に投与されることで効果が得られる。与薬にあたっては患者・家族に医師から説明がなされ、同意が得られていることが必要である。看護師は医師に指示された薬剤を正しく与薬する義務がある。</p> <p>また、与薬後は患者を観察し、使用する薬剤の作用・副作用・期待される効果を正しく理解する必要がある。</p> <p>正常に呼吸することを日常生活で意識することは少ない。しかし、何らかの原因で呼吸が正常に行えない状態が生じると、活動範囲が狭められるだけでなく、苦痛・不安が生じ、生命さえも脅かされる。呼吸状態を改善し、整える技術は、そのような状態の患者の安楽、生活の質の改善、生命の維持に直結する技術である。看護師は、呼吸・循環を整える知識と技術身につける必要がある。</p> <p>(静脈血採血は、診療援助技術論Ⅰにて述べている)</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1 2 3	与薬の技術	1. 与薬に関する基礎知識 ・薬物療法の理解 ・薬物療法の看護師の役割・患者の援助 2. 経口与薬法 3. 外用薬の皮膚・粘膜適用 ・口腔内与薬法 ・直腸内与薬法 ・皮膚用製剤の塗布、貼付 ・点眼、点入法 ・吸入法	専任教員
4 5	呼吸・循環を整える技術	1. 呼吸の意義とアセスメント ・呼吸の意義としくみ ・呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本 2. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 3. 気道分泌物の排出の援助 ・体位ドレナージ、スクイーピング ・一時的吸引 4. 酸素吸入療法 ・酸素吸入療法の概要、方法 5. 胸腔ドレナージ 6. 人工呼吸療法	
6	呼吸・循環を整える技術	7. 一時的吸引(演習)	〃
7	輸血管理	1. 援助の基礎知識 2. 輸血の実際	〃
8 9	注射による与薬法	1. 注射法の目的と適応 2. 各注射法に関する基礎知識	〃
10		*技術演習 1)真空管を用いた採血	〃
11		2)皮下注射	
12		3)筋肉内注射	
13 14		4)翼状針による点滴静脈内注射	
15 (0.5)	包帯法	1. 援助の基礎知識 2. 援助の実際 ・巻軸帯の巻き方 ・三角巾を用いた上肢の固定方法	〃
15	学科試験		

教 科 目 名	看護過程論	単位数(時間数)	1 単位 (30時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次・前期

学習目標	<p>目的:問題解決思考に基づき、看護上の問題を解決するための思考過程を習得する。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の一連のプロセスの理解を深める。</li> <li>2. 看護過程の展開における自己の課題を明確にできる。</li> <li>3. 問題解決思考と目標志向型思考を理解できる。</li> <li>4. 健康障害をもつ対象の理解ができる。</li> <li>5. 健康問題の解決に向けた看護過程の展開ができる。</li> </ol>
授業の形式	事例を基に、講義ならびに課題学習と演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、授業参加態度、提出物、レポート
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 I」 基礎看護学 【2】 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 I 「臨床看護総論」 基礎看護学 【4】 医学書院</p> <p>「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>*解剖生理学、病理学等</p>
メッセージ	<p>看護は看護を受ける対象の状況により、様々なかたちに変化する性質を持っています。ヘンダーソンは「看護師の独自の機能は、病人であれ健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復(あるいは平和な死)の一助となるような生活行動を行うのを援助することである」と述べています。</p> <p>健康問題を抱える対象のよりよい成果を期待するには、対象のその時々状況を観察し、その情報の意味するものを考え、実践する方法を導き出す科学的な意味づけを持った看護のプロセスが必要です。そのために直感や経験だけで実践するのではなく、科学的根拠を踏まえた問題解決思考を習得する必要があります。</p> <p>1年次に看護過程の一連のプロセスを学習し、実習でそれらを経験してきました。その経験をさらに意味あるものに変換し、看護過程を活用できるレベルへの向上が求められます。</p> <p>この科目では、1年次の学習を想起しながら、既習の学習を基に事例を活用した対象理解と看護実践の具体的方法を学びます。また、基礎看護学実習Ⅲや成人看護学実習Ⅰとの連動で効果的に学習できる展開内容としています。</p>

回	授業主題	授業内容	講師	
1	授業ガイダンス 看護過程展開の 基盤となる知識	1. 授業の進め方 2. 看護過程を展開するための基礎知識	専任教員	
2 3	一連の看護過程を 振り返る	アセスメント 1. 情報の確認 2. 情報の分類・整理 3. アセスメントの視点		
4		問題の明確化 1. 問題の優先順位 2. 看護目標の妥当性 ・問題との一貫性 ・達成の評価基準		
5 6		看護計画 1. 目標の設定 ・患者を中心とした期待される成果の記述 ・客観的で評価が可能な表現の記述 ・患者の能力や限界を考慮し、到達可能な記述 2. 計画の立案 ・具体的で個別性のある計画 ・原因、誘因を除去または軽減する計画		
7 8		実施・評価 1. 評価の視点 ・目標達成評価 ・状態改善度 ・患者の満足度		
9	看護過程における問題解決思考と目標志向型思考	1. 問題解決思考 2. 目標志向型思考		〃
10	健康障害をもつ患者の 看護過程の実際	健康障害をもつ対象の理解		
11		・病態の理解		
12		・アセスメント ・全体像の描写		
13		問題の明確化 ・優先順位の決定 ・看護目標の設定		
14		看護計画の立案 ・個別性、具体性のある看護計画の立案		
15		実施と評価		



教科目名	基礎看護学実習 I	単位数 (時間数)	1 単位 (45 時間)
担当者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期～中期

学習目標	<p>目的： 看護の対象となる者とのコミュニケーションを図り、対象の療養生活の理解と対象に必要な看護の方法について学ぶ。</p> <p>目標：</p> <p><b>【基礎看護学実習 I - ①】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の療養生活を知る。</li> <li>2. 対象とのコミュニケーション技法を学ぶ。</li> <li>3. 臨床でどのような看護がなされているのかを知る。</li> <li>4. 行動目標に照らし合わせて、1 日の振り返りをする。</li> </ol> <p><b>【基礎看護学実習 I - ②】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の療養生活を理解できる。</li> <li>2. 対象と適切なコミュニケーションがとれる。</li> <li>3. 対象に必要な日常生活援助を考え、原理・原則に基づいて実施できる。</li> <li>4. 実践した援助について報告し、自己の行動を振り返る。</li> <li>5. 学習者としての規律を守り、自ら学ぶ姿勢を整える。</li> </ol>
実習施設	富良野協会病院、芦別市立病院、上富良野町立病院、美瑛町立病院
実習方法	<p><b>【基礎看護学実習 I - ①】</b> 15 時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院、病棟の概要等の説明や見学を通し、対象の安全がどのように守られているのかを学ぶ。</li> <li>2. 看護師の看護援助の場면을観察し、コミュニケーション技法や生活援助の内容を学ぶ。</li> <li>3. 看護の対象とのコミュニケーションを実践する。</li> <li>4. 療養環境の観察を行い、対象の生活の場を知る。</li> </ol> <p><b>【基礎看護学実習 I - ②】</b> 30 時間</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意思疎通の図れる対象を受け持つ。</li> <li>2. 対象のニーズに着目し、必要な日常生活援助を考えて実践する。</li> </ol>
成績評価の方法	基礎看護学実習 I - ①においては、レポートにて学びの状況と自己課題を確認し、基礎看護学実習 I - ②終了後に①②を合わせて、基礎看護学実習 I の評価表に基づき評価する。

教科目名	基礎看護学実習Ⅱ	単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
担当者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：入院や疾病が日常生活に及ぼす影響を理解し、対象のニーズに合った看護を考え実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。</li> <li>2. 看護過程を用いて、対象の生活上の課題を把握し看護を考えることができる。</li> <li>3. 対象のニーズに合わせた具体的な援助を実践する。</li> <li>4. 実践した援助について報告し、客観的に実践を振り返る。</li> <li>5. 学習者としての責任ある行動と、自ら学ぶ姿勢を身につける。</li> </ol>
実習施設	芦別市立病院、上富良野町立病院、美瑛町立病院、ふらの西病院
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1名の患者を受け持ち、問題解決思考プロセスを用いて看護過程の一連のプロセスを展開する。</li> <li>2. 必要な基本技術・援助技術を用いて、日常生活援助を実践する。</li> </ol>
成績評価の方法	「基礎看護学実習Ⅱ 実習評価表」に基づき評価する。

教科目名	基礎看護学実習Ⅲ	単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
担当者	専任教員	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的： 対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、看護過程を展開して健康上の問題を解決できる基礎的能力を習得する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。</li> <li>2. 対象の健康障害について理解することができる。</li> <li>3. 看護過程を展開し、対象の健康上の問題を捉えることができる。</li> <li>4. 対象の健康上の問題を解決するための援助を実践できる。</li> <li>5. 実践した援助について報告し、実践の評価・修正ができる。</li> <li>6. 主体的に学習に取り組み、今後の自己の課題を明確にできる。</li> </ol>
実習施設	富良野協会病院、芦別市立病院、美瑛町立病院、ふらの西病院
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1 名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 立案した看護計画に沿って、援助を実践する。</li> <li>3. 看護計画の評価・修正をする。</li> </ol>
成績評価の方法	「基礎看護学実習Ⅲ 実習評価表」に基づき評価する。

教 科 目 名	地域・在宅看護概論 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年生 通年

学習目標	<p>目的：看護の対象となる「地域の住民の生活」と「地域の特性」を理解できる。</p> <p>目標：1. 生活の場としての富良野市を理解できる。  2. 「地区踏査」を実施することで、地域の特性を把握できる。  3. 富良野市に関心を持ち、富良野市の特徴や生活資源および医療資源を知る。</p>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義 演習</li> <li>・グループワーク</li> </ul>
成績評価の方法	<p>授業の出席状況</p> <p>レポート 50%、グループ活動状況 50%</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 「地域・在宅看護論」 医学書院</p> <p>国民衛生の動向 厚生統計協会</p>
メッセージ	<p>地域での健康と暮らしを支えるためには、人々の暮らす地域の環境を理解することが重要です。実際に自分で地域を歩き、人々が生活している住居や街並み、暮らしぶりなどを観察することで、地域独特の雰囲気、地理的状況、生活様式などの情報を収集して欲しいと思います。地域を歩いて回ることで、街の魅力を発見したりなど、富良野市への興味関心が高まると同時に、愛着形成にもつながります。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	「地域とは何か」	1) 「地域」を知ること 2) 「地域」とは 2) 地域で暮らす人々とその生活 3) 人々の多様な生活・地域性の理解 4) 「地域・在宅看護論」とは 4) 地域包括ケアシステムとは	専任教員
2 3 4 5 6	「地域把握」の理解 「富良野市を知る」 グループディスカッション を行い『マインドマップ』を 作成	富良野市を知るための方法：地区踏査 1) 富良野市で暮らす人びと ・住民特性：人口構成および人口動態 （人口密度、人口分布、世帯数、世帯人員数、 年齢別人口、転出入の状況、出生・死亡、一 人暮らし高齢者数、高齢夫婦世帯、単身世帯 など） ・富良野市の成り立ち、歴史・文化、風土、 祭りなど ・住民性、信念や価値観、宗教、人間関係の 特徴など 2) 物理的環境 ・面積、気候、地形や自然環境、建物・住居、 街並みなど 3) 教育機関・生涯学習施設 ・行政の社会教育部門、小・中・高校、大学、 公民館、図書館、スポーツ施設、生涯教育講 座、文化センター、美術館など ・それぞれの利用状況、アクセス、地域との かかわりなど 4) 安全と交通 ・警察、消防の状況、消防団や防犯組織、公 害の備え、避難所など） ・交通機関、アクセス、道路状況、公害など 5) 政治と行政 ・政治への参加度、自治体と行政の関係や 活動状況、市民団体の状況など ・自治体の基本構想、各種行政計画・目標な ど（市町村の高齢者関連の基本構想、介護保 険関連の行政計画・目標など）	〃

		<p>6) 保健医療と社会サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政の保健衛生部門、病院・診療所・クリニックなどの状況、薬局、訪問看護ステーション、健康増進施設（フィットネスクラブ）など</li> <li>・保健福祉関連機関、保健福祉サービス</li> </ul> <p>7) コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマルなメディア（TV、新聞、インターネットなど）</li> <li>・地域の人々の情報伝達・入手手段の状況（地域のミニコミ誌、広報誌、ポスター、掲示板、回覧板など）</li> <li>・地域の人が集まったり話したりしている場所や方法など</li> </ul> <p>8) 経済・産業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的特徴（所得水準、生活保護率など）</li> <li>・ビジネス、産業、商店街の状況</li> <li>・労働の状況（雇用や失業率、職業など）</li> </ul> <p>9) レクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス、娯楽施設、公園（楽しめる、憩いの場所）</li> <li>・場所、内容、アクセス、利用状況</li> </ul>	
7 8	グループワーク	各グループで『マインドマップ』を発表し、「富良野市」の理解を深める。	専任教員
9 10 11 12	「地域把握の理解」 「富良野市を知る」 『マインドマップ』から見えてきたもの	これらの地域情報から、グループごとに「興味・関心」のある事項に関して、具体的に調査を実施する。 (グループディスカッションの実施)	〃
13 14 15 (0.5)	グループワーク	各グループの発表により、富良野市の特徴や生活資源および医療資源などを知り、地域の特性を把握する。	〃
	学科試験		

教 科 目 名	地域・在宅看護概論Ⅱ	単位数（時間数）	2単位 （45時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2年次 通年

学習目標	<p>目的：地域包括支援システムなどを促進するために、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援できる看護のあり方を学ぶ。</p> <p>目標：1. 環境が人々の生活や健康にどのように影響しているか理解できる。  2. 健康問題の背景にある地域の特性について理解できる。  3. 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解できる。  4. 地域で生活する・療養する人とその家族を支える保健医療福祉について理解できる。  5. 看護の対象は地域に住むすべての人々であることに気付き、また互いに支え合い、つながり合いながら生きていることを理解（実感）できる。</p>
授業の形式	・講義を中心に、グループワークや演習を組み込んで展開する。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価する。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 「地域・在宅看護論」 医学書院</p> <p>ナシグ・グラフィカ 在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>
メッセージ	<p>対象者が“訪問看護利用者”や“在宅療養者”から“地域で暮らすあらゆる人々”となり、人々が自分達の手で暮らすことを支援し、実践の場はあらゆる場（外来・病棟・施設・事業所・在宅など）、すなわち“地域全部”となり、個人が、家族が、地域がより良く暮らすことを目指すことにつながっています。</p> <p>地域でさまざまな人々の暮らし方をしている人々と接し、生活者としての対象の理解を深めるとともに多様な場における看護のあり方を考えます。また、人間の生活の場である地域を理解し、看護が社会のニーズに対応しながら健康を支える存在であることを学びます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	暮らしの理解 暮らしが健康に与える 影響	1. 暮らすということ ・子どもを生き育てる ・学ぶ ・働く ・病を治す ・老いとともに生きる ・最期を迎える 2. 支え合って生きるとは ・家族 ・仲間 ・近隣の人々 ・学校の職場 ・支え合い 3. 地域の生活環境が健康に与える影響 ・文化的環境 ・社会的環境 ・自然環境	専任教員
2 3 4 5	人々の生活圏・生活環 境を理解する。  グループワーク	フィールドワークで富良野市内を探索し、そこに暮らす人々にインタビュー（街頭・住民）を行い、環境が生活にどう影響しているかを考える。	〃
6 7	グループワーク	各グループごとに成果物を発表し、富良野市内の暮らす人々の生活に、環境がどう影響しているかを理解する。	〃
8	地域・在宅看護論の対 象と看護の基盤となる 概念	1. 地域・在宅看護論の対象 ・地域に暮らすすべての人々 ・健康状態（健康～終末期まで） ・発達段階（胎児期～老年期まで） ・家族 夏休み中の課題とする。 地域（地元）で暮らす人々に対し、フィールドワーク（インタビューなど）などで、あらゆる健康課題やライフステージの人々を知る機会とする。フィットネスクラブや老人クラブ、市で行っているサークルなど様々な場で、利用する人々を知る。	〃
9 10	グループワーク	各グループごとに成果物を発表し、地域でさまざまな人々の暮らし方をしている「生活者」としての対象理解を深める。	〃
11 12	健康と暮らしを支える 看護	・地域包括ケアシステムにおける看護の役割 ・自助/互助/共助/公助の意義と役割 ・家族を支える看護 ・多職種連携、協働の意義と方法	〃
13 14 15 16	看護が提供される多様 な場を理解する	・病院（外来、入院）、診療所 ・居宅（自宅、施設） ・療養通所介護事業所 ・訪問看護事業所 ・看護小規模多機能型居宅介護	〃





教 科 目 名	地域・在宅看護方法論 I	単位数 (時間数)	2 単位 (45 時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標	<p>目的：在宅看護の役割と機能や在宅療養者と家族が地域で生活することを支えるための看護実践に必要な、基本的援助技術を学ぶ。</p> <p>目標：1. 在宅看護が必要とされる背景を社会情勢の変化とともに理解できる。  2. “生活者”としての療養者の暮らしを支える訪問看護が理解できる  3. 在宅における面接技術の基本、観察の視点が理解できる  4. 在宅療養者の健康状態と日常生活のアセスメントができる。  5. 在宅看護に必要な日常生活の援助技術が理解できる。  6. 在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護が理解できる。  7. 対象の生活や価値観を尊重した援助の方法について考えることができる。</p>
授業の形式	・講義を中心に、GW や演習を組み込んで展開する。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価する。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 「地域・在宅看護論」 医学書院</p> <p>ナシグ・グラフィカ 在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p> <p>新床ずれケアナビ Book 日本在宅褥瘡ケア推進協会</p>
メッセージ	<p>在宅看護の対象は、在宅療養者とその家族です。家族は個人を取り巻く人的環境のうち最も小さい単位であり、家庭という同じ空間と時間の中で過ごし、身近で互いに影響し合う存在であり、療養者および家族に対して支援することが重要です。</p> <p>また、在宅看護は、地域で暮らす人々が、疾病や障害による困難や制約を受けながらもそれぞれの生活の中で、自分たちの持てる力を最大限に生かし、その人がその人らしく生活できるよう“生活”を支えることを目的としています。在宅看護の対象者は、年齢も疾患もさまざまです。家族構成や地域性、住環境などによって全く異なったケアが必要とされます。さらに、療養者個人の発達段階、あるいは家族の発達段階に応じて多彩なニーズがあります。そのニーズを的確に判断し、それに応じたケア方法を検討しなければなりません。また、医療依存度が高い利用者への支援も近年増加しています。在宅死を希望する療養者や家族の増加も予測されます。従って、複数の医療機器管理について、その都度、必要な知識と技術を学んでいかなければならないのです。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	在宅看護の変遷と社会背景  在宅看護の提供方法と訪問看護  在宅看護の活動と展開  在宅看護の基本と看護師の役割と倫理的態度	1. 在宅看護の目的と特性 1) 在宅看護の変遷と特徴 2. 在宅看護が必要とされる社会背景 1) 社会の変化とニーズ 2) 超高齢社会の進展と地域包括ケア 1. 生活の場に応じた看護の特徴 2. 訪問看護サービスの提供 ! ) 訪問看護制度と特徴 2) 訪問看護ステーションの理解 1. 在宅看護の活動 1) 対象者の特徴 2) 活動の特徴 3) 生活の中での安全管理 2. 在宅看護の役割と機能 1) 療養の場の移行 2) 医療機関との連携 3) 施設との連携 1. 在宅看護の基本 1) 訪問の基本姿勢と面接技術 2) 在宅療養を支える基本技術 2. 在宅療養環境の基本 3. 在宅看護特有の倫理問題	専任教員
3	地域で生活する人々と、その家族の看護についての理解	1. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 ・ハイリスクアプローチ 生活習慣病予防 介護予防 など ・健康行動理論の活用 ・セルフケア理論の活用 2. 地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント ・ヘルスアセスメント ・病態、症状のアセスメント ・家族のアセスメント ・生活のアセスメント	〃
4	訪問診療(在宅医療)の理解	1. 外来医療(外来診療)、入院医療、在宅医療(往診・訪問診察)との違い 2. 訪問診療の実際	非常勤講師

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
5 6 7 8	暮らしの場で行われる 生活援助技術 (演習含む)	1. 食生活への援助 1) 在宅での食事援助の特徴 2) アセスメントと援助 3) 食事及び摂食障害時の援助 2. 排泄への援助 1) 在宅での排泄行為の特徴 2) 排泄のアセスメント 3) 排泄援助と自立への支援 4) 排泄障害への援助 3. 移動・リハビリへの援助 1) 在宅での移動・活動の特徴 2) 移動、活動のアセスメント 3) 移動、活動への援助 4) 在宅でのリハビリテーション 4. 清潔への援助 1) 在宅での清潔・入浴の特徴 2) 清潔のアセスメントと援助方法 3) 清潔援助と社会資源の活用	専任講師
9  10 11 12 13 14 15	暮らしの場で行われる 治療と看護	1. 在宅での医療処置管理の援助 1) 医療ケアの原理原則 2) 在宅における感染管理 2. 在宅での薬物療法 1) 在宅における薬物療法の意義 2) 服薬への援助 3. 褥瘡予防、褥瘡処置 4. 栄養状態改善のケア 5. 輸液 6. 在宅経管栄養/在宅中心静脈栄養法 7. 膀胱留置カテーテル 8. CAPD 療法 9. 在宅酸素療法 10. 在宅人工呼吸療法 11. 非侵襲的陽圧換気療法 12. ストーマ管理 13. 疼痛緩和	専任教員  非常勤講師

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
16 17	暮らしの場で行われる 治療と看護の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅酸素療法の実際</li> <li>・在宅人工呼吸器療法の実際</li> </ul>	専任教員
18 19 20 21 22	在宅看護での看護過程 の特徴	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅看護過程の特徴</li> <li>2) 在宅看護過程の展開方法</li> <li>3) 事例課題/全体関連図演習</li> </ol>	〃
23 (0.5)	学科試験		

教 科 目 名	地域・在宅看護方法論Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位 （30 時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	3 年次 前期・後期

学習目標	<p>目的：在宅療養者の特徴と現状の問題を理解し、地域における在宅療養者と家族への看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>目標：1. 病気や障害を持ちながら、患者が病院から生活の場に戻っていくための支援が理解できる。</p> <p>2. 疾病や障害を抱え生活している療養者と家族についての理解、アセスメントの方法を理解できる。</p> <p>3. 疾病や障害の程度、病期に応じた看護介入の方法を理解できる。</p> <p>4. 地域で生活する療養者と家族を支えるための社会資源について考えることができる。</p> <p>5. 療養者と家族の QOL を高める支援とは何か考えることができる。</p> <p>6. 在宅を支えるケアチームの役割、看護の役割について考えることができる。</p> <p>7. 在宅看護の現状と課題について考えることができる。</p>
授業の形式	講義の他、各状態別の事例について、具体的支援を考える。講義を中心に、個人ワークやグループワークを組み込んで展開する。
成績評価方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価する。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 「在宅看護論」 医学書院</p> <p>ナシグ・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>国民衛生の動向 高齢者白書 厚生労働統計協会</p>
メッセージ	<p>看護の対象者は1つの病院に長期間入院するのではなく、病状に合わせて適切な療養の場へと移りながら、そして住み慣れた地域や在宅へ帰ることを目指しています。在院日数の短縮化が進められた結果、入院期間は人生のほんの通過点であるにとらえられるようになってきています。治療一辺倒の医療から、病気や障害を抱えながら地域や在宅での療養生活、さらには暮らしの場での看取りまでを支援する医療やケアを展開していかなければなりません。「時々（まれに）入院、ほぼほぼ在宅」を目指し、入院は病院でしか受けられない手術や検査、治療の場合のみで、それ以外は、地域や自宅での生活を拠点にして、必要なときに適切な場所で適切な医療が受けられることが必要です。重度の要介護状態となっても「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける」ことができるよう、切れ目ない医療・ケアの連携は不可欠です。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
1 2	病院から在宅への橋渡しの重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携室</li> <li>・退院調整と退院支援</li> <li>・地域連携クリティカルパス</li> <li>・診療情報提供書の意義や管理</li> <li>・継続看護</li> <li>・医療機関同士の連絡調整</li> <li>・前方支援業務と後方支援業務の違い</li> <li>・多職種連携</li> <li>・地域・社会資源との連携・調整</li> <li>・退院前カンファレンス</li> </ul>	専任教員
3 4	介入時期と看護の継続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療の場からの移行期</li> <li>・在宅療養の安定期・在宅リハビリテーション期</li> <li>・急性増悪期</li> <li>・終末期 ・グリーフケア</li> <li>・継続看護の意義と方法</li> </ul>	〃
5 6	地域で療養する人の理解	1) 認知症療養者の理解と看護 (1) 認知症療養者と家族の理解 (2) 認知症療養者と家族への支援	非常勤講師
7	地域で療養する人の理解	(2) 難病の療養者と家族への支援のポイント (3) 療養者と家族への援助	〃
8	地域で療養する人の理解	3) 精神疾患を有する療養者の理解と看護 (1) 精神障害者の在宅看護の特徴 (2) 療養者の理解と支援	〃
9 10	地域で療養する人の理解	4) 在宅療養児の理解と看護 (1) 小児の在宅看護の現状 (2) 在宅療養児と家族への援助	専任教員
11 12	地域で療養する人の理解	5) 終末期にある療養者の理解と看護 (1) 在宅ターミナルの現状と課題 (2) 在宅ターミナルケアの実際	非常勤講師
13	災害時における健康危機管理	1) 在宅療養における災害対策 2) 地域包括ケアシステムにおける災害対策	専任教員
14 15 (0.5)	在宅看護の動向	1) 在宅看護にかかわる法令・制度 (1) 医療確保法・障害者総合支援法・難病法他 (2) 介護保険法改正のポイント 2) 在宅看護の動向 (1) 訪問看護の現状 (2) 在宅看護の動向	〃
	学科試験		

教 科 目 名	地域・在宅看護論実習	単位数（時間数）	2単位(90時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3年次

学習目標	<p>目的：在宅療養者と家族に対する在宅ケアの実際をとおして、訪問看護サービス等の展開方法を学び、在宅における看護の提供方法を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者とその家族について多面的・統合的に理解することができる。</li> <li>2. 在宅療養者や家族の自己決定権を尊重し、その人らしい生活を支援するための訪問看護活動の実際を理解することができる。</li> <li>3. 在宅療養者・家族のQOLを支えるための地域包括ケアシステム（自助・互助・共助・公助、切れ目のない支援）や保健医療福祉チームにおける看護師の役割と責任を理解できる。</li> <li>4. チームの一員である看護専門職として、実習に臨むことができる。</li> </ol>
実習施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野地域訪問看護ステーション</li> <li>・訪問看護ステーション「青いとり」</li> <li>・芦別市訪問看護ステーション</li> <li>・上富良野訪問看護ステーション</li> <li>・美瑛訪問看護ステーション</li> <li>・富良野協会病院地域医療連携室/ふらの西病院地域医療連携室</li> <li>・居宅支援事業所「いちい」</li> <li>・保健センター「地域包括支援センター」</li> </ul>
実習方法	<p>訪問看護ステーション：5回の見学訪問を行い、1例のみ2回訪問した事例に関して、全体関連図にまとめ、看護上の課題と看護の方向性を述べる。他3例に関しては、訪問活動の実際から提供した看護の考察ができる。また、個々のステーションの特性に応じた実際の看護活動について、同行訪問や施設でのミーティング、ケアカンファレンス、サービス担当者会議等への参加をとおして学ぶ。</p> <p>地域医療連携室：入院中の患者・家族が、安心して住み慣れた家で療養生活を送れるようにするためには、どのような支援が行われているのか、退院調整看護師やその他の職種の活動の実際を学ぶ。</p> <p>居宅支援事業所：ケアマネージャーの役割（ケアプランの実際など）を理解する。</p> <p>地域包括支援センター：地域における活動の実際を学び、地域高齢者とその家族へ果たす役割・機能を理解する。（運営・機能・役割、支援の対象、利用者のニーズ、サービスの実際）</p>
成績評価方法	「地域・在宅看護論実習 実習評価表」に基づき評価する。



教 科 目 名	成人看護概論	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 通年

キーワード	ライフサイクル、発達課題、人口構造、生活習慣病、健康日本21、ヘルスプロモーション、危機、ストレス、セルフケア
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：成人期の特徴と成人をとりまく社会状況の変化を学び、多様で複雑な健康問題を抱える成人の生活を理解する。また、成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための基礎理論を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルからみた成人期の特徴を理解する。</li> <li>2. 生活環境や社会状況との関連から成人期の健康を理解する。</li> <li>3. 保健統計からみた成人期の健康問題を理解する。</li> <li>4. 健康な生活のバランスが崩れた時におこる健康障害について理解する。</li> <li>5. 成人の健康を守りはぐくむシステムを理解する。</li> <li>6. 成人看護に必要なストレスやセルフケアなどの基礎理論を理解する。</li> </ol>
授業の形式	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義</li> <li>2) グループワーク</li> </ol>
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験によって評価を行なう。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座専門Ⅱ 成人看護学【1】「成人看護学総論」医学書院</li> <li>・「国民衛生の動向」厚生統計協会</li> </ul>
メッセージ	<p>この単元は成人看護方法論Ⅰ～Ⅵのベースとして位置づける科目です。人のライフサイクルの中で成人期は、青年期・壮年期・向老期と長期かつ、広範囲に及び、心身の成熟期でもあり、身体的には穏やかな衰退が始まっていますが、精神的には円熟を増す向老期までと社会活動が最も盛んな時期です。</p> <p>この単元では、成人期の特徴と成人の健康について、生活環境や社会状況との関係から学んでいきます。健康な生活のバランスが崩れた時にどのような健康障害がおこってくるのか、また健康を守り育むシステムと、成人看護に必要な基礎理論を学んでいきます。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1 2 3 4 5 6	成人看護の対象	成人と生活 ライフサイクルからみた成人期 1) 成人とは 2) ライフスタイルの特徴 3) 生涯発達理論 4) 成人期の区分 成人各期の特徴 1) 青年期・壮年期・向老期の特徴、発達課題 2) グループワーク・発表	専任教員
7 8 9	生活と健康 生活と健康障害	成人の健康の状況 1) 職業に関連する健康障害 ・職業性疾患および業務上疾病、職業性疾患の予防と対策 2) こころの病 ・就労上のストレス、メンタルヘルス 3) 日本の人口構造 ・総人口、年齢3区分人口、人口ピラミット 4) 生と死の動向 ・平均余命、出生の動向、死亡の動向 5) 自殺と過労死 ・自殺の動向、自殺の背景、自殺の対策 6) 健康状態と受療状況 ・有訴者率、通院者率、受療率、人間ドック 7) 生活習慣病の現状と対策 ・生活習慣病の概念、予防、	〃
10 11 12	成人の健康を守り はぐくむシステム	保健・医療・福祉システム 1) がん対策 ・我が国におけるがんの現状、がん対策の歴史 がん対策基本法 3) 健康増進対策 ・健康日本21、健康増進法	〃
13 14 15	成人への看護 アプローチの基本	1) 健康行動の促進 ・成人の行動の理解、主体的な健康行動の促進、自己効力感、ヘルスプロモーション 2) ストレスへの対処を促す看護 ・ストレスの概念、ストレス理論 ストレスコーピング 3) エンパワメントモデル、セルフケア ・エンパワメントモデルとは ・セルフケアとは、セルフケアと看護理論 セルフマネジメント	〃
	学科試験		

教 科 目 名	成人看護方法論Ⅰ（慢性期の看護）	単位数（時間数）	2単位（45時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	1年次 後期

学習目標	<p>目的：慢性期にある成人の特徴を踏まえて、慢性疾患が生活に及ぼす影響を理解する。また、慢性疾患患者に必要な看護の方法を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性疾患を持ちながら生活している成人の特徴を理解する。</li> <li>2. 慢性疾患とはどのような病態なのかを理解し、その看護の役割と方法について学ぶ。</li> <li>3. 疾病をもちながら生活の営みを再構築していくための取り組みについて理解し、セルフケア行動の形成・維持するための看護援助方法を学ぶ。</li> <li>4. 慢性疾患を持つ対象の理解と看護に概念（成人看護学概論で既習した理論）が有用であることを学ぶ。</li> </ol>
授業の形式	講義を主としながら進めますが、演習も行っていきます。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価します。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学【1】成人看護学総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学【5】消化器疾患患者の看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学【6】内分泌・代謝疾患患者の看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学【7】脳・神経疾患患者の看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学【8】腎・泌尿器疾患患者の看護 医学書院</p> <p>講義に関連する資料を適宜配布します</p>
メッセージ	<p>基本的な人体の構造、疾患に関連した解剖生理は理解をしているという前提で講義を進めていきます。各自、予習・復習をして講義に臨んでください。</p> <p>成人看護概論で学んだ成人期にある人々が、慢性疾患によって日常生活にどのような影響があり、どのような援助が必要であるのかを一緒に学びましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	成人期における慢性疾患とその医療	(1) 慢性病とは (2) 慢性疾患の性質、病みの軌跡 (3) 慢性疾患の発症と成人期の課題	専任教員
2 3 4 5	消化吸収機能障害をもつ成人の看護	胃腸疾患を通して消化吸収機能、機能低下に伴う症状、生活への影響、看護の役割	〃
6 7	人工肛門を造設した患者の看護	ストーマケアの実際と管理（演習も含む）	非常勤講師
8 9 10	栄養代謝機能障害をもつ成人の看護	肝疾患を通して栄養代謝機能、機能低下に伴う症状、生活への影響、看護の役割	専任教員
11 12 13	血糖調節機能障害をもつ成人の看護	糖尿病疾患を通して糖尿病患者の理解、検査、治療、看護の役割	非常勤講師
14	血糖値測定の実際	簡易式血糖測定器を用いて実技演習 (検査の意義、留意点、実施方法)	専任教員 非常勤講師
15 16 17 18	腎機能障害をもつ成人の看護	慢性腎不全患者を通して腎機能、機能障害に伴う症状、生活への影響、看護の役割	専任教員
19	脳・神経障害をもつ成人の看護 - 1)	脳梗塞の患者を通して脳・神経障害、機能障害に伴う症状、生活への影響、看護の役割	非常勤講師
20 21 22	慢性疾患を持つ患者の看護展開	事例課題のすすめ方と事例提示 事例の看護展開についての解説・講義	専任教員
	学科試験		

教 科 目 名	成人看護方法論Ⅱ（急性期の看護）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2年次・前期

学習目標	<p>目的：急性期にある成人の特徴をふまえて、急激な身体的変化や生命危機の状態にある患者・家族に必要な看護の方法を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期の特徴である「侵襲」に伴う全身状態の不安定さを理解する。</li> <li>2. 病態生理、治療・処置や方法、予測される状況を理解する。</li> <li>3. 呼吸や循環機能障害などにより出現する症状や障害を理解し、生活にどのような影響を与えているか、またそれに対してどのような看護援助が必要かを理解する。</li> <li>4. 褥瘡のメカニズムやその治療に必要な看護援助について理解する。</li> <li>5. 生体防御機能障害に伴う症状や治療・看護援助について理解する。</li> </ol>
授業の形式	講義形式で進めます。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価します。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 医学書院</p> <p>成人看護学【2】呼吸器疾患患者の看護</p> <p>成人看護学【3】循環器疾患患者の看護</p> <p>成人看護学【7】脳・神経疾患患者の看護</p> <p>成人看護学【6】内分泌・代謝疾患患者の看護</p> <p>成人看護学【11】アレルギー疾患患者の看護・膠原病患者の看護・感染症患者の看護</p> <p>成人看護学【12】皮膚疾患患者の看護</p>
メッセージ	<p>基本的な人体の構造、疾患に関連した解剖生理は理解しているという前提で講義を進めていきます。各自、予習・復習をして講義に臨んでください。</p> <p>成人看護概論で学んだ成人期にある人々が、急性期の疾患や生命危機の状態により日常生活にどのような影響があり、どのような援助が必要であるのかを一緒に学びましょう。</p>

	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	急性期の患者の看護	1) 急性期の概念 2) 急性期看護の特徴 (ICUにおける看護 含)	専任教員
2 3 4	呼吸機能障害をもつ 成人の看護	肺癌患者を通して 1) 呼吸機能、機能障害に伴う症状 2) 救命・苦痛の緩和 3) 回復に向けて必要な観察と看護	〃
5 6 7 8	循環機能障害をもつ 成人の看護	急性心筋梗塞患者を通して 1) 循環機能、機能障害に伴う症状 2) 救命・苦痛の緩和 3) 回復に向けて必要な観察と看護	〃
9 10 11	脳・神経障害をもつ 成人の看護 - 2)	脳梗塞の患者を通して 1) 脳・神経障害、機能障害に伴う症状 2) 生活への影響 3) 看護の役割	非常勤講師
12 13	褥瘡、内分泌・自己免疫疾患をもつ成人の 看護	褥瘡の発生メカニズム 予防と治療に必要な観察と看護	〃
14 15 (1h)		内分泌・自己免疫疾患の患者を通して、 1) 内分泌・免疫機能障害に伴う症状 2) 治療方法 3) 日常生活に必要な援助・看護方法	〃
	学科試験		

教 科 目 名	成人看護方法論Ⅲ (周手術期の看護)	単位数(時間数)	1単位・30時間
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2年生 後期

学習目標	<p>目的：周手術期にある成人の特徴をふまえて、手術が身体・心理・社会的側面に及ぼす影響を理解する。また、周手術期にある患者・家族に必要な看護の方法を学び、看護展開できる知識と技術を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期における成人の特徴を理解し、その対象と家族の看護の役割と方法を学ぶ。</li> <li>2. 周手術期に必要な看護技術を学ぶ。</li> <li>3. 手術後の身体的変化に伴い、生活にどのような影響を与えているか、またそれに対してどのような看護援助が必要かを理解する。</li> </ol>
授業の形式	講義を主としながら進めますが、事例展開も行っていきます。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価します。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学【9】「女性生殖器」 医学書院</p> <p>講義に関連する資料を適宜配布します</p>
メッセージ	<p>手術とは、病巣を除去するために、正常な組織に対して人為的に損傷（侵襲）を加える操作のことである。その生体への侵襲を克服すること、回復力のすばらしさや生体の持つ自然治癒力を理解してほしい。3年次における実習のイメージ化をはかるとともに、手術見学や実習展開の中で、実際に「目で見て、触れて、感じて」理解しつつ、「患者様から学ぶ」ということを是非してほしいと思う。また、医療者に運命すべてをゆだねざるを得ない状況下の中で、手術を受ける患者様の「人権と生命の尊厳」を考えてもらいたい。</p> <p>術前～術中～術後を患者様がどのように乗り越えるのか、そのためにどのような援助を必要としているのか、看護者の役割は何かを理解してほしい。また、手術前・中・後を通して基本的な合併症予防の方法や治療、看護の流れ、看護者の役割についても理解してもらいたい。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師	
1	周手術期の看護	1) 周手術期の看護の特徴 (1) 手術とは (手術侵襲と生体反応) (2) 手術を受ける患者の特徴 (3) 周手術期看護とは	専任教員	
2		2) 手術と麻酔法 麻酔の種類、手術前・中・後の管理、人工呼吸器など	非常勤講師	
3 4 5		3) 手術前の患者の看護 (1) 術前アセスメント、術後合併症など (2) 術前日・当日の看護 (3) 術前に必要な技術 術前オリエンテーション、患者教育、呼吸訓練法、体位変換・早期離床への援助、術前の清潔援助	専任教員	
6 7		4) 手術中の患者の看護 (1) 麻酔の種類と合併症 (2) 麻酔による生体反応 (3) 手術体位、手術室の環境、手術室看護の実際		
8		5) 手術に伴う身体機能変化と必要となるセルフケア行動		非常勤講師
9 10 11 12 (1h)		6) 手術後の患者の看護 手術後の観察、正常な回復過程、術後合併症とその援助、早期離床など 7) 術後に必要な技術 術後ベッドの準備、術直後の観察、各種モニタリング、創部の処置・ドレーン管理、酸素吸入・吸引、カテーテル類の管理	専任教員	
13 14 15		周手術期にある患者の看護展開	8) 事例課題のすすめ方と事例提示 事例の看護展開についての解説・講義	〃
		学科試験		



教 科 目 名	成人看護方法論Ⅳ (回復期・終末期の看護)	単位数(時間数)	1 単位・30 時間
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・通年

学習目標	<p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 回復期にある成人の特徴をふまえて、回復過程にある患者の看護の機能と役割について理解するとともに、患者・家族に必要な看護援助の方法を学ぶ。</li> <li>2. 終末期にある成人の特徴をふまえて、身体・心理・社会的変化に及ぼす影響と、終末期にある患者・家族に必要な看護の方法を学ぶ。</li> </ol> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動機能障害を持つ成人期にある対象とその家族の看護を通し、リハビリテーション看護の方法と実際を学ぶ。</li> <li>2. 人間における生と死の意味を考える。</li> <li>3. がん疾患をもつ成人の看護を通し、その治療や症状に伴う苦痛への看護援助方法を学ぶ。</li> <li>4. 人生の最期のときを支える看護について、その対象や家族に対する看護の役割や機能を理解する。</li> </ol>
授業の形式	講義を主としながら進めますが、技術演習も行っています。
成績評価の方法	授業の出席状況、学科試験の結果を総合して評価します。
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学【10】「運動器」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</p> <p>系統看護学講座 「臨床看護総論」 医学書院</p> <p>講義に関連する資料を適宜配布します</p>
メッセージ	<p>基本的な人体の構造、疾患に関連した解剖生理は理解しているということを前提で講義を進めていきます。各自、予習・復習をして講義に臨んでください。</p> <p>リハビリテーションの基礎を学び、臨地で活用できるリハビリテーションの実際について習得していきましょう。</p> <p>わが国の死因順位は昭和 56 年以降悪性新生物が第 1 位です。しかし、現代、医療技術の発展とともに、各種治療法や疼痛コントロールを受けながら社会生活・日常生活を送っている方も多くいます。がん患者の看護を通して、人生の終末期を迎える方の治療と看護、それを支える家族への援助について学びを深め、生と死について考える機会としてほしいと思います。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師	
1	回復期の患者の看護	1) 回復期の概念 2) 回復期看護の特徴	専任教員	
2 3 4 5 (1h)	運動機能障害をもつ成人の看護	運動器疾患患者を通して、運動機能、機能障害に伴う症状、治療方法、苦痛の緩和・回復に向けて必要な観察と看護		
6 7	リハビリテーション看護	1) リハビリテーションの基本的な考え方 2) リハビリテーションにおける評価		非常勤講師
8 9	リハビリテーションの 実際  (演習)	1) ベッドサイドでの移動・移乗方法 2) 呼吸器理学療法		
10	終末期の患者の看護	1) 終末期の概念 2) 終末期看護の特徴		〃
11 12 13 14 15	がん患者の看護	1) 告知に対する援助 2) 疼痛コントロール 3) ライフスタイルの変化と QOL を考えたがん患者への看護 4) がん患者を支える家族への援助 5) 放射線療法時の看護 6) 化学療法時の看護	〃	
	学科試験			

教 科 目 名	成人看護学実習 I	単位数 (時間数)	3 単位 (90 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次

学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>目的： 成人期にある健康問題をもつ対象を総合的に理解し、健康問題の解決に向けた看護過程を展開し、健康障害をもつ対象への看護の役割と方法を学ぶ。</p> <p>目標： 1. 対象の健康問題が心身に及ぼす影響を考える。 2. 対象や家族の生活過程の特徴や心理状態を理解する。 3. 対象の健康問題の解決に向けて援助を実践する。 4. 実践した援助について報告し、評価する。 5. 学習者として基本的な態度を有する。</p>
実習施設	富良野協会病院、ふらの西病院、市立芦別病院、美瑛町立病院
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習病棟で患者を一人受け持ち、看護過程を展開しながら、必要な看護を実践する。</li> <li>・ 病棟実習終了後、クラスカンファレンスを実施し、相互の学びを共有し、学習内容や看護観を深める。</li> </ul>
成績評価方法	「成人看護学実習 I 実習評価表」に基づき評価を行う。

教 科 目 名	成人看護学実習Ⅱ	単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3 年次

学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>目的： 成人期にあるそれぞれ異なる健康レベルの対象を統合的に理解し、看護過程を活用して、健康レベルに応じた個別的な看護を実践できる能力を養う。</p> <p>目標： 1. 対象の健康問題の種類や健康段階の理解を深めニーズを考える。 2. 対象や家族の生活過程の特徴や心理状態を理解する。 3. 対象の健康問題の解決に向けて援助を実践する。 4. 実践した援助について報告し、評価する。 5. 学習者としての基本的な態度を有する。</p>
実習施設	富良野協会病院、市立芦別病院、美瑛町立病院
実習方法	・ 実習病棟で患者を一人受け持ち、看護過程を展開しながら、必要な看護を実践する。
成績評価方法	「成人看護学実習Ⅱ 実習評価表」に基づき評価を行う。

教 科 目 名	老年看護概論	単位数（時間数）	1 単位 30 時間
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的</p> <p>老年期を生きる人々の生活と健康について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者が生活してきた歴史的背景を学習し、高齢者の多様な価値観を理解できる。</li> <li>2. 既習学習である「ライフサイクル」を想起し、発達過程における老年期の位置づけを理解できる。</li> <li>3. 最新データを活用し、わが国の高齢化の実情を理解できる。</li> <li>4. 既習学習の健康の概念の高齢者の実情を関連させながら、高齢者の健康の特徴について理解できる。</li> <li>5. 加齢に伴う変化の特徴を学習し、個人差が大きいことを理解できる。</li> </ol>
授業の形式	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には講義が中心になる。</li> <li>・ 講義はテキストの項目どおりには進行しない。 テキストで取り上げていることすべてを講義で取り上げることはできない。 テキストを参考に、講義で取り上げない部分も自己学習をすること。</li> <li>・ 毎回「学習目標」を提示する。</li> <li>・ 適時課題に対してレポートを作成し提出する。</li> </ul>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 15回の講義終了後に100点満点の試験を実施する。</li> <li>・ レポート提出状況やGW、授業態度</li> </ul> <p>* 出席時間数が授業時間の3分の2に満たない場合は、試験を原則受けることはできない。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p> <p>高齢白書 内閣府 国民衛生の動向 厚生統計協会</p>
メッセージ	<p>高齢者を理解するために、日ごろから高齢者に関心を持ち、話をする機会を持ちましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	老年期の理解①	(1) ライフサイクルからの高齢者の理解 ①老年期の定義 ②加齢と老化	専任教員
2	老年期を生きる人々の特徴	(1) 老年期の発達と成熟 ①老年期における発達と成熟の意味 ②老年期の発達課題 ③人格と尊厳 ④喪失体験 ⑤高齢者のスピリチュアリティ (2) 高齢者の多様性 ①高齢者の人生と経験の意味 ②高齢者の生活史 ③価値観の多様性 ④健康状態の多様性 ⑤生活習慣・生活様式の多様性	専任教員
3 ・ 4 (0.5)	老年期の理解②	(1) 高齢者疑似体験 (演習と GW) ①身体的老化の日常生活への影響 ②ボディイメージの変化 ③高齢者への必要な配慮	専任教員
5 ・ 6	老年期の理解③	(1) 加齢に伴う諸機能の変化 ①加齢に伴う変化の特徴 ②身体的機能の加齢変化 ③精神的機能の加齢変化 ④社会的機能の加齢変化	専任教員
7 ・ 8	老年期の理解④	(1) 高齢者の身体機能の変化と看護 (GW) ①高齢者の身体的変化と観察点 ②新多機能の変化に合わせた看護	専任教員

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
9 ・ 10	老年期の理解⑤	(1) 人口学的指標からの老年期の理解 ①高齢者人口の推移 ②前期・後期高齢者人口の年代別構成 ③性差 ④地域格差 (2) 健康指標からの老年期の理解 ①平均寿命・健康寿命 ②疾病構造と有病率・有訴率 ③受療行動・受療の動向 ④要介護高齢者の出現率と動向 ⑤死亡率、死因、死亡場所 (3) 生活の視点からの老年期の理解 ①生活の構造 ②生活リズムと生活習慣 ③役割と社会生活・余暇活動 ④家族・世帯構成 ⑤住宅と環境 ⑥就労・雇用 ⑦収入・生計	専任教員
11 ・ 12	老年期の理解⑥	(1) 高齢者の生活史(GW) 高齢者の生きてきた背景を知る	専任教員
13	老年期を生きる人々の健康	(1) 高齢者にとっての健康 ①老年期の健康のとらえ方 ②高齢者の健康の特徴 ③生きがいと生活の満足感	専任教員
14	高齢者を取り巻く社会	(1) 高齢者と家族 ①高齢者と家族のライフサイクル ②家族構成の変化 ③家族形態の変遷 ④高齢者と家族の人間関係 (2) 高齢者と社会システム ①高齢者の社会参加 ②高齢者ソーシャルサポート ③高齢者サービスシステム	専任教員
15	まとめ	全体のまとめ (国家試験問題を中心に重要ポイントを学習) ①加齢に伴う3側面の変化 ②人口学的、健康的指標 ③高齢者と社会システム など	専任教員
(0.5)	学科試験		

教 科 目 名	老年看護方法論 I	単位数 (時間数)	2 単位・4 5 時間
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・前期

学習目標	<p>目的</p> <p>加齢現象によって諸機能の低下を余儀なくされる高齢者の諸問題を理解し、対象に応じた看護の基礎を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特徴を踏まえた高齢者の看護技術とはどのようなものか理解できる。</li> <li>2. 高齢者の生活を援助する看護技術の特徴、意味、必要性について理解できる。</li> <li>3. 加齢に伴って生じる身体状態、生活の変化に対するアセスメントと健康的な生活のための健康管理方法、セルフケア支援方法について理解できる。</li> <li>4. 加齢に伴う生理的变化を検査と関連付け、予測される健康障害を述べることができる。</li> <li>5. 高齢者に多くみられる主な症状と看護方法について理解できる。</li> </ol>
授業の形式	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には講義、グループワーク、演習が中心になる。</li> <li>・ テキストを参考に、講義で取り上げない部分も自己学習をすること。</li> <li>・ 適時課題に対してレポートを作成し提出する。</li> </ul>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 22 回の講義終了後に 100 点満点の試験を実施する。</li> <li>・ レポート提出状況</li> </ul>
教科書・参考書	<p>&lt;教科書&gt;</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院  国民衛生の動向 厚生統計協会  高齢社会白書 内閣府</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>生活機能からみた 老年看護過程 医学書院  根拠と事故防止からみた 老年看護技術 医学書院</p>
メッセージ	<p>老年看護学概論 I で学習した内容や、基礎看護学で履修した日常生活援助技術の原理・原則を基盤とするために、復習を行った上で授業に出席してください。</p>





回	授業主題	授 業 内 容	講 師	
6		(4) 活動・休息／転倒／廃用症候群／ 健康維持・増進と QOL ①活動と休息のアセスメント ②活動と休息の援助 ③高齢者の転倒予防の意義 ④転倒発生の要因 ⑤転倒予防のためのアセスメント ⑥転倒予防のための援助 ⑦廃用症候群による心身への影響 ⑧高齢者にとっての健康維持・増進の意義 ⑨高齢者にとっての QOL ⑩高齢者の QOL に影響を与えるもの	非常勤講師	
7		(5) 歩行／移動／清潔・衣生活 ①歩行・移動動作のアセスメント ②歩行・移動動作の援助 ③清潔行為のアセスメント ④更衣動作のアセスメント ⑤清潔・衣生活の援助		
8		(6) 排泄 ①排泄のアセスメント ②排泄の援助 (演習)		
9 10		(7) 食生活 ①食生活のアセスメント ②食生活の援助 (演習)		非常勤講師
11		高齢者によくみられる身体 症状と看護		(1) 脱水症 ①高齢者の脱水症の病態と要因 ②脱水症のアセスメント ③脱水症の予防と援助
12 13	(2) 尿失禁／便秘／下痢 ①高齢者の尿失禁の病態と要因 ②尿失禁のアセスメント ③尿失禁を有する高齢者への援助 ④高齢者の便秘・下痢の病態と要因 ⑤便秘・下痢のアセスメント ⑥便秘・下痢の予防と援助 ⑦おむつ・リハビリパンツ体験 (GW)			

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
14 15		(3) 摂食・嚥下障害 ①高齢者の摂食・嚥下障害 ②摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護 ③誤嚥性肺炎の予防と援助	非常勤講師
16 17		(4) 睡眠障害／視覚障害／聴覚障害 ①高齢者の睡眠の特徴と睡眠障害の病態と要因 ②睡眠障害のアセスメント ③睡眠障害を有する高齢者への援助 ④高齢者の視覚・聴覚障害の病態と要因 ⑤視覚・聴覚障害の程度と生活への影響のアセスメント ⑥補聴器を使用する高齢者とその家族への援助	専任教員
18 19		(5) 発熱／痛み／浮腫／倦怠感／瘙痒／低栄養状態 ①高齢者の症状の特徴と症状の病態と要因 ②症状の程度と生活への影響のアセスメント ③症状を有する高齢者への援助と予防 (6) 廃用症候群／褥瘡 ①高齢者の廃用症候群の病態と要因 ②廃用症候群のためのアセスメント ③廃用症候群予防のための援助	
20 21 22	高齢者によくみられる身体症状と看護過程	(1) 事例展開 (GW・発表) ①脱水 ②排泄障害 ③嚥下障害	専任教員
	学科試験		

教 科 目 名	老年看護方法論Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位・30 時間
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・前期～後期

学習目標	<p>目的 疾病・障害を持つ高齢者の諸問題を理解し、対象に応じた看護の基礎を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病・障害を持つ高齢者の特徴について理解できる。</li> <li>2. 加齢に伴う変化が、老年期の疾病の発病と経過に及ぼす影響を考えることができる。</li> <li>3. 老年期に多い疾病の病態、症状、診断、治療について理解できる。</li> <li>4. 健康障害を持った老年期にある人に対する健康問題をアセスメントし、実践・評価するための過程について理解できる。</li> <li>5. 経過別、治療・処置別、検査別看護について理解できる。</li> <li>6. 高齢者の健康状態を評価し、健康障害のある高齢者とその家族に対し、それぞれの健康状態に応じた日常生活への援助方法について理解できる。</li> <li>7. 高齢者の家族をはじめとして、高齢者を取り巻く人々のソーシャルサポートの概念について理解できる。</li> <li>8. 事例を通して、老年期にある対象の看護過程の展開ができる。</li> </ol>
授業の形式	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストを参考に、講義で取り上げない部分も自己学習をすること。</li> <li>・ 適時課題に対して提出を求める。</li> </ul>
成績評価の方法	筆記試験にて評価を行う。
教科書・参考書	<p>&lt;教科書&gt;</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>国民衛生の動向 厚生統計協会  高齢社会白書 内閣府</p>
メッセージ	<p>高齢者の特徴は老化であり、老化に伴う疾病も多くあります。老年看護のねらいは、疾病治療を中心とするのではなく、老化に応じた生活の支援、そして、人生の終末までできる限り自立して人間らしい尊厳を保持できるように援助することが重要です。方法論Ⅱでは、高齢者特有の健康問題を持つ人とその家族への看護、および高齢者の安全を支援する看護を中心に授業を展開します。解剖生理、病態、成人看護学の復習を確実にを行い、暗記としてではなく、論理的に裏づけされた知識として身につけ、臨床の場に応用していけるような看護について主体的に学習しましょう。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1~5	1) 疾病・健康障害をもつ高齢者の看護	(1) 脳卒中 ①高齢者の脳卒中の病態と要因 ②脳卒中の症状と生活への影響のアセスメント ③脳卒中予防のための援助 ④脳卒中の治療と援助・急性期・回復期・維持期 ⑤家族への援助	専任教員
		(2) 心不全 ①高齢者の心不全の病態と要因 ②心不全の症状と生活への影響のアセスメント ③心不全予防のための援助 ④心不全の治療と援助	
		(3) パーキンソン病／パーキンソン症候群 ①高齢者のパーキンソン病の病態と要因 ②パーキンソン病の症状と生活への影響のアセスメント ③パーキンソン病の治療と援助	
		(4) 腎不全 ①高齢者の腎不全の病態と要因 ②腎不全の症状と生活への影響のアセスメント ③腎不全の治療と援助	
		(5) 骨粗鬆症／骨折 ①高齢者の骨粗鬆症／骨折の病態と要因 ②骨粗鬆症／骨折の症状と生活への影響のアセスメント ③骨粗鬆症・骨折予防のための援助 ④骨粗鬆症／骨折の治療と援助	
6		(6) 認知症 ①高齢者の認知症の病態と要因 ②認知症高齢者に対する基本的姿勢とコミュニケーション方法 ③周辺症状と生活への影響のアセスメント ④認知症の治療と援助 ⑤認知症の療法的アプローチ ⑥認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム ⑦認知症高齢者の権利擁護、社会的支援・制度	
7			

8	1) 疾病・健康障害をもつ高齢者の看護	(1) 検査と看護ケア／栄養ケア・マネジメント ①高齢者が受けることの多い検査 ②検査を受ける高齢者への援助 ・円滑な検査実施への援助 ・検査結果のアセスメント ③栄養ケア・マネジメント ・栄養スクリーニング ・栄養アセスメント ・栄養ケアプラン	非常勤講師
9		(2) 薬物療法と看護ケア ①加齢に伴う薬物動態の変化 ②服薬管理とリスクマネジメント ③薬物療法を受ける高齢者への援助	
10	2) 治療を受ける高齢者への看護	(3) 手術療法と看護ケア ①手術を受ける高齢者の特徴 ②麻酔・手術侵襲が高齢者に与える影響 ③高齢者の手術療法におけるインフォームド コンセントの看護の役割 ④術前準備における高齢者への援助 ⑤術中における高齢者への援助 ⑥高齢者に起こりやすい術後合併症の予防と援助	
11	2) 治療を受ける高齢者への看護 3) 高齢者の終末期の看護	(4) リハビリテーションと看護ケア ①高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴 ②リハビリテーションを受ける高齢者の看護	〃
12 (0.5)		(5) 受療形態に応じた高齢者への看護 ①外来診察時の看護 ②入院時の看護 ③退院計画と退院時の看護	〃
13		(1) 高齢者の死にかかわる権利と医療・ケア提供者の責務・役割 ①高齢者の死亡の動向 ②終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 ③終末期における生き方や死の迎え方の意向 (アドバンスディレクティブ、リビングウィル) ④家族の参加と家族への支援	〃

		<p>⑤多専門職種からなる医療・ケアチームによる 終末期支援の意義と役割</p> <p>(2) 終末期看護の実践</p> <p>①身体聴講のアセスメントと看護</p> <p>②苦痛の緩和と安楽への看護</p> <p>③精神的苦痛や混乱に対する看護</p> <p>④臨死期の評価と看護</p> <p>(3) 看取りを終えた家族への看護</p> <p>①家族の心理の理解と看護</p> <p>②家族へのグリーフケア</p> <p>③家族の生活の再構築への看護</p>	
14	4) 高齢者のリスクマネジメント	<p>(1) 高齢者と医療安全</p> <p>①高齢者と医療事故</p> <p>②高齢者特有のリスク要因</p> <p>③病院・施設におけるリスクマネジメント</p> <p>④高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際</p> <p>(2) 高齢者と災害看護</p> <p>①災害と災害看護</p> <p>②災害に対する高齢者特有のリスク</p> <p>③災害のサイクルに伴う看護援助</p> <p>④災害に対する備え</p>	非常勤講師
15	5) 老年看護の展開	<p>(1) 看護過程の考え方</p> <p>①看護過程の基本</p> <p>②高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方</p> <p>(2) 事例展開の実際</p> <p>①情報の分類とアセスメント</p> <p>②全体像と看護の焦点</p> <p>③看護計画立案と評価</p>	専任教員
		学科試験	

教 科 目 名	老年看護学実習	単位数（時間数）	3 単位（90 時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次

学習目標	<p>目的</p> <p>老年期にある対象の特徴を理解し、高齢者とその家族の健康レベルに応じた生活援助の実際を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象を身体的、精神・心理的、社会的側面から統合的に理解する。</li> <li>2. 対象の老化と健康障害が、日常生活にどのような影響を及ぼしているか関連付けて理解する。</li> <li>3. 対象の日常生活障害と健康状態に応じた必要な援助を明確にする。</li> <li>4. 対象の個別性に応じた日常生活援助ができる。</li> <li>5. 保健・医療・福祉チームの役割と連携を知り、現状と問題点について理解する。</li> <li>6. 学習者としての基本的な態度を有する。</li> </ol>
実習施設	学内、富良野協会病院、 他
実習方法	<p>学内予習：実習前準備（老年看護に関する知識、技術）</p> <p>病棟実習：老年期の対象を受け持ち、看護を展開、実践する。</p> <p>学内振り返り：実習の振り返り、記録整理</p>
成績評価方法	「老年看護学実習 実習評価表」に基づき評価をする。



教 科 目 名	小児看護概論	単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次・前期

学習目標	<p>目的</p> <p>子どもを取り巻く社会の中で、小児看護の対象と小児看護の役割・機能を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の理念・目的を理解できる。</li> <li>2. 小児看護における子どもの人権について理解できる。</li> <li>3. 子どもの特徴や成長・発達が理解できる。</li> <li>4. 子どもを取り巻く社会的環境とその動向、社会的にみた子どもの健康上の課題を理解できる。</li> <li>5. 子どもの健康生活を守るための虐待防止について理解できる。</li> <li>6. 小児保健をふまえ、子どもを保護する法律や保健対策を理解できる。</li> </ol>
授業の形式	<p>授業方法は、主に講義とグループワークを併用し、事例・視聴覚などの教材を用いて展開する予定です。適宜プリント、パワーポイント等の視聴覚機器も使用します。</p>
成績評価の方法	<p>出席状況、グループワーク、提出物、試験によって総合的に評価する。</p>
教科書・参考書	<p>奈良間美保他「系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[1]」（医学書院）</p> <p>舟島なをみ「看護のための人間発達学」（医学書院）</p> <p>筒井真優美他「パーフェクト臨床実習ガイド小児看護」（照林社）</p> <p>（参）月刊 新聞記事からできた本 こども（クマノミ出版）</p> <p>（参）子ども白書 （参）国民衛生の動向</p>
メッセージ	<p>小児期が人間形成の基盤として重要な時期であることを前提とし、子どもの成長・発達と健康増進、子どもの成長・発達に重要な影響力を持つ家族の役割、子どもの最善の利益を考えた地域ぐるみのヘルスプロモーションやセーフティープロモーションについて学びます。</p> <p>また、グループ学習および自己学習への積極的な取り組みを期待します。授業だけでの子どもの理解ではなく、身近にいる子どもと、意図的にかかわり、積極的な姿勢で学びを深めて欲しいと考えます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1	小児看護の概念①	1 小児看護の理念・特徴・目的 2 子ども観・小児看護の変遷 1) 子ども観の変遷 2) 小児医療の変遷 3) 小児看護の変遷 3 小児看護の課題	専任教員
2	小児看護の概念②	1 小児看護の倫理 1) 子どもの人権 2) 児童憲章 3) 児童の権利に関する条約 4) インフォームド・アセント 5) アドボガシー	〃
3	子どもの成長・発達①	1 子どもとは 1) 小児期と区分(各法律からみた区分と定義) 2 子どもの特徴	〃
4	子どもの成長・発達②	1) 全体的特徴 2) 小児期の発達課題 3 成長・発達の原則 4 成長・発達に影響する因子	〃
5	子どもの成長・発達③	1) 遺伝的因子 2) 環境的因子 5 小児各期の成長発達	〃
6	子どもの成長・発達④	1) 形態的成長 2) 機能的発達 3) 心理・社会的発達 ①認知 ②情緒 ③社会性	〃
7	子どもの成長・発達⑤	④コミュニケーション ⑤遊びと学習 6 成長・発達の評価の方法	〃
8	子どもの成長・発達⑥	1) 身体発育の評価 2) 精神・運動機能の評価 3) 療育環境のアセスメント	〃

回	授業主題	授 業 内 容	講師
9	子どもと環境①	1 子どもと環境 1) 子どもと家族 2) 子どもと社会 ①子どもと家族を取り巻く環境の変化 ②社会の変化 ③現代社会と小児 3) 子どもの安全 ①不慮の事故 ②安全対策・安全教育 ③予防接種	専任教員
10	子どもと環境②	2 児童虐待が疑われる子どもと家族の特徴 1) マルトリートメント 2) 児童虐待の分類 3) 予防と早期発見 4) 小児看護の役割 5) 他職種との連携・協働	〃
11	子どもと環境③	子どものおかれている社会状況 テーマに関連した視聴覚教材	〃
12(0.5)			〃
13	小児保健対策①	1 子どもと保健 1) 統計からみた子どもの健康 ①出生率 ②乳児死亡率 ③子どもの死亡 ④子どもの疾病・異常被 患率など 2) 子どもを保護する法律と保健対策 3) 社会資源	〃
14	小児保健対策②		〃
15	小児保健対策③		〃
16	学科試験		

教 科 目 名	小児看護方法論 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・前期

学習目標	<p>目的 子どもの発達段階に応じた日常生活の特徴をふまえ、健全な成長発達、健康増進に向けた看護を理解する。</p> <p>目標 1. 新生児・乳児とその家族への看護が理解できる。 2. 幼児とその家族への看護が理解できる。 3. 学童とその家族への看護が理解できる。 4. 思春期にある子どもとその家族への看護が理解できる。 5. 子どもの日常生活に必要な援助技術を習得できる。</p>
授業の形式	<p>授業方法は、主に講義とグループワーク、演習を併用し、事例・視聴覚などの教材を用いて展開する予定です。適宜プリント、パワーポイント等の視聴覚機器も使用します。</p> <p>講義で得た知識を実際に演習の場で技術として習得し、子どもの健康の保持・増進のための日常生活援助技術の基礎を学ぶ</p>
成績評価の方法	出席状況、グループワーク、提出物、試験によって総合的に評価する。
教科書・参考書	<p>奈良間美保他「系統看護学講座専門Ⅱ小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[1]」(医学書院)</p> <p>筒井真優美他「パーフェクト臨床実習ガイド小児看護」(照林社)</p> <p>(参)舟島なをみ「看護のための人間発達学」(医学書院)</p> <p>(参)水野克己他「あんしんナットク楽しく食べるお母さんと赤ちゃんの食事」(へるす出版)</p> <p>(参)月刊 新聞記事からできた本 こども (クマノミ出版)</p>
メッセージ	<p>子どものライフスタイルや健康は、子どもを取り巻く環境と家庭、地域のあり方に強く規定され、その中で日常生活行動を獲得し、健康管理行動を発達させる。子どもの発達段階に応じた日常生活の特徴を理解し、健康増進に向けた健康生活のあり方を学びます。</p> <p>また、グループワーク学習および自己学習の積極的な取り組みを期待します。特に演習内容に関しては各自で学習を積み重ねて欲しいと思います。身近にいる子どもから、その子を取り巻く社会情勢や日常生活に必要なと思われる援助を考察する姿勢を見につけていく学習を期待します。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	子どもについて知る①	視聴覚教材『さくらんぼ坊や・1』幼児の全面発達を求めて 視聴覚教材『さくらんぼ坊や・2』模倣と自立	専任教員
2	新生児・乳児  心の安全基地	1 新生児・乳児の健康増進と安全な環境の提供 1) 授乳・離乳と栄養 2) 運動と遊び 3) 予防接種 4) 感染予防 5) 事故防止	〃
3	新生児・乳児	2 家族への援助（育児支援） 1) アタッチメント・分離不安 2) 母子保健サービスの活用 * 早期新生児の看護は母性看護で学ぶ	〃
4	子どもについて知る②	視聴覚教材『さくらんぼ坊や・3』言葉と自我	〃
5	幼児	1 幼児の健康増進と安全な環境の提供 1) 基本的な生活習慣の確立 2) 食生活と栄養・食育	〃
6	幼児	3) 自我の発達と遊び 4) 感染予防 5) 事故防止 2 家族への援助（育児支援） 1) 家族指導 2) 地域保健サービスの活用	〃
7	学童	1 学童の健康増進とセルフケアの発達 1) セルフケアと保健教育 2) 食生活と食育 3) 学校への適応	〃
8	学童	4) 学習と遊び 5) 事故防止 2 家族への援助 1) 学童の情緒と仲間や家族との関係 2) 学童の問題行動と対応	〃

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
9 10	思春期	1 思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの 確立 1) 食生活 2) 親からの自立 3) 異性への関心 4) 生活習慣の予防 5) 第二次性徴 2 家族への援助 1) 情緒的変化と家族関係 2) 思春期の問題行動と対応 3 小児の性意識の変化と逸脱行動	専任教員
11	日常生活援助 の技術	1 子どもにとっての遊びの意義 2 発達段階別遊びのアプローチの実際	非常勤講師
12	日常生活援助 の技術	乳幼児の安全な環境 乳幼児の清潔ケア：身体の清潔ケア、乳幼児の歯磨き、	専任教員
13 (0.5)	日常生活援助 の技術	鼻のケア（鼻吸い、鼻のかみ方）、衣服の着脱のしかた など	〃
14	日常生活援助 の技術	離乳食演習	〃
15	日常生活援助 の技術	離乳食演習	〃
16	学科試験		

教 科 目 名	小児看護方法論Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・前期

学習目標	<p>目的</p> <p>子どもにみられる健康問題の特徴を踏まえ、さまざまな健康問題に応じた子どもとその家族に必要な看護を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの療養環境を理解できる。</li> <li>2. 病気・入院が子ども家族に与える影響を理解できる。</li> <li>3. 子どもに多い疾患について、特有な症状、疾病発生のメカニズム、検査方法および治療法に関する基本的な知識を修得する。</li> <li>4. 子どもに出現しやすい症状についての理解し、症状が子どもに与える影響を学ぶ。</li> </ol>
授業の形式	講義方式、適時プリント、パワーポイント等の視聴覚機器も使用します。
成績評価の方法	子どもにみられる主な健康障害と治療⇒定期試験（100%） 子どもに特徴的な症状の理解、疾病の経過と特徴、子どもと家族への看護 →出席状況、グループワーク、提出物、試験によって総合的に評価する。
教科書・参考書	<p>奈良間美保他「系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2]」（医学書院）</p> <p>奈良間美保他「系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[1]」（医学書院）</p> <p>石黒彩子他「発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図」（医学書院）</p> <p>（参）及川郁子（監）「子どもの外来看護」（へるす出版）</p>
	<p>関連科目の理解を前提とします。また、子どもの認知の発達の特徴を理解することで、子どもがどのように病気をとらえるのか、子どもの権利を守ることとは何かを考えることができます。</p> <p>また、子どもは、身体的、精神的にも未熟であることから健康上の問題を引き起こしやすい。また医療技術の進歩は、多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。こうした状況の中で、21 世紀を担う子どもたちが最善の利益を守られ健やかに成長・発達することができるようにさまざまな健康状態に応じた看護について学びましょう。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	子どもにみられる主な健康障害と治療(1)	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 新生児の疾患	非常勤講師
2	子どもにみられる主な健康障害と治療(2)	呼吸器疾患 循環器疾患	〃
3	子どもにみられる主な健康障害と治療(3)	消化器疾患	〃
4	子どもにみられる主な健康障害と治療(4)	腎・尿路疾患 運動器疾患	〃
5	子どもにみられる主な健康障害と治療(5)	感染症 (1)	〃
6	子どもにみられる主な健康障害と治療(6)	感染症 (2)	〃
7	子どもにみられる主な健康障害と治療(7)	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患	〃
8	子どもにみられる主な健康障害と治療(8)	血液・造血器疾患、 悪性新生物 内分泌疾患と代謝性疾患	〃
9	子どもにみられる主な健康障害と治療(9)	血液・造血器疾患、 悪性新生物 内分泌疾患と代謝性疾患	〃
10	子どもにみられる主な健康障害と治療(10)	神経疾患 精神疾患	〃
11	健康障害をもつ子どもの生活と看護(1)	呼吸系疾患・循環器系疾患・感染症のある子どもと家族	〃
12	健康障害をもつ子ども(0.5)の生活と看護(2)	免疫性疾患・アレルギー性疾患のある子どもと家族	〃
13	健康障害をもつ子どもの生活と看護(3)	生活制限のある子どもと家族 在宅療養を行う子どもと家族	〃
14	健康障害をもつ子どもの生活と看護(4)	先天的な問題のある子どもと家族	〃
15	健康障害をもつ子どもの生活と看護(5)	障害のある子どもと家族	〃
16	学科試験		



教 科 目 名	小児看護方法論Ⅲ	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・後期

学習目標	<p>目的 子どもの状況に沿った具体的な看護を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病の経過別の特徴を理解する。</li> <li>2. 経過別特徴が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。</li> <li>3. 主な健康障害における看護を理解し、経過別の看護ケアの共通点を理解する。</li> <li>4. 事例展開を通して子どもと家族の看護を理解できる。</li> <li>5. 子どもの検査・処置について理解する。</li> </ol>
授業の形式	主に講義とグループワークを中心に展開します。適宜プリント、視聴覚教材なども活用します。
成績評価の方法	出席状況、グループワーク、提出物、試験によって総合的に評価する。
教科書・参考書	<p>奈良間美保他「系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2]」(医学書院)</p> <p>奈良間美保他「系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学[1]」(医学書院)</p> <p>石黒彩子他「発達段階からみた小児看護過程+病態関連図」(医学書院)</p> <p>筒井真優美他「パーフェクト臨床実習ガイド小児看護」(照林社)</p> <p>(参)桑野タイ子(監)「疾患別小児看護 基礎知識・関連図と実践例」(中央法規)</p> <p>(参)山城雄一郎(監)「ナースのための小児の病態生理辞典」(へるす出版)</p>
メッセージ	<p>関連科目の理解を前提とします。健康な子どもの理解をもとに、病気・入院が子どもや家族に及ぼす影響を発達段階別にとらえます。</p> <p>子どもが成長・発達する過程では、健康障害や疾病などさまざまな状況に遭遇します。その状況に沿った看護ケアを具体的に理解しましょう。また、子どもに出現しやすい症状および看護を理解することで健康障害が子どもに及ぼす影響を理解し、必要な看護についての理解を深めていきましょう。</p> <p>看護ケアの具体的方法は子どもの理解が基礎になります。小児看護とは何か、どのような看護かを意識し学びます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	疾病の経過の特徴と看護(1)	急性期にある子どもと家族の看護 事例:急性胃腸炎、肺炎、川崎病など	専任教員
2	疾病の経過の特徴と看護(2)	慢性期にある子どもと家族の看護 事例:糖尿病、ネフローゼ症候群、 ファロー四徴症、気管支喘息など	〃
3	疾病の経過の特徴と看護(3)		〃
4	疾病の経過の特徴と看護(4)	グループワーク いずれかの看護過程の展開とその看護の 実践と発表	〃
5	疾病の経過の特徴と看護(5)	周手術期の子どもと家族の看護 事例:ヒルシュスプルング病、 胆道閉鎖症など	非常勤講師
6	疾病の経過の特徴と看護(6)	終末期の子どもと家族の看護 事例:白血病(痛みの看護を含む)	〃
7	検査・処置を必要とする子どもの看護	子どもにとっての検査・処置とは 薬物動態と薬用量の決定 具体的検査・処置時の看護 救急処置時の看護	〃
8	学科試験		

教 科 目 名	小児看護学実習	単位数（時間数）	2 単位(90 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3 年次

学習目標	<p>目的</p> <p>子どもの成長発達・生活状況・健康状態を理解し、変化する社会・地域の中で子どもと家族を取り巻く環境やその影響をとらえ、健康に発達するための看護援助について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象となる子どもとその家族を理解するとともに、子どもを取り巻く環境を認識し、その影響を考えることができる。</li> <li>2. 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響をふまえ、必要な援助を実施できる。</li> <li>3. 子どもと家族の権利を擁護し、子どもの最善の利益を守る援助を実施できる。</li> <li>4. 変化する社会・地域の中における小児看護の役割や保健医療福祉チームにおける連携の必要性を考えることができる。</li> </ol>
実習施設	富良野市内の幼稚園・保育所、富良野協会病院、富良野市内の児童発達支援施設、北海道療育園
実習方法	<p>富良野市内の幼稚園・保育所：保育活動を見学または参加し、健康な子どもの発達段階を理解する。</p> <p>富良野協会病院：患児を受け持ち、健康問題が成長発達に及ぼす影響を関連図を用いて理解し、子どもに必要な看護を学ぶ。</p> <p>富良野市内の児童発達支援施設：児童福祉法に基づき、未就学の障害児や発達の遅れが気になる児の療育支援について見学し、児童発達支援の実際を学ぶ。</p> <p>北海道療育園：施設の概要説明を受けた後、生活支援や活動場面、昼食の見学を通して、重症心身障害児（者）と触れ合う。見学実習後、カンファレンスを行い、臨地実習指導者とともに学生間で重症心身障害児（者）への支援について学ぶ。</p>
成績評価の方法	「小児看護学実習 実習評価表」に基づき評価する。

教 科 目 名	母性看護概論	単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	1 年次・前期・後期

学習目標	<p>目的：母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象の特性、母性を取り巻く環境を理解し、看護・支援のあり方を学ぶ。</p> <p>目標：1) 母性看護の基盤となる概念について理解する。  2) 母性看護の対象を女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化から理解する。  3) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷、母子保健システムの現状を知り、母性看護の対象への社会システムを理解する。  4) 女性のライフサイクル各期における健康問題と看護を理解する。  5) 女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点からリプロダクティブヘルスケアの実際を理解する。  6) 母性看護実践に必要なアセスメントと看護実践の提供の方法論を理解し、より良い母性看護を考える。</p>
授業の形式	講義形式・グループワーク
成績評価の方法	試験
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学① 医学書院</li> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ女性生殖器(成人看護学) 医学書院</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護学Ⅰ（概論）第2版 医歯薬出版, 2020</li> <li>・国民衛生の動向 2020/2021</li> </ul>
メッセージ	<p>女性の性と生殖の形態と機能の変化を性と生殖について、ライフサイクルとマタニティサイクルの二つの観点から理解を深めます。</p> <p>女性の性周期に伴う発達・成熟、衰退に対して、女性自身の健康管理へのセルフケア能力を高める生活への支援が必要です。女性のライフサイクル各期の健康問題とその課題、必要な看護について考えます。</p> <p>母性看護の対象の取り巻く環境、母子保健システムの現状を理解し、健康で安心して妊娠・出産、子育てができる社会システムから母子とその家族への支援について学習します。</p> <p>母性看護は皆さんにより、将来必ず迎えることであり、自分自身にことです。まずは自分自身の心と体の変化を知り、健康管理に向けてセルフケアできることを目指しましょう。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2 3	母性看護の基盤となる 概念	1 母性とは 1) 子どもを産み育てること親になることと母性 2) 母性の身体的特性、心理・社会的特性 2 母子関係と家族発達 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2) 家族機能と家族の発達課題 3 セクシュアリティ (人間の性) 1) セクシュアリティとは 2) セクシュアリティの発達と課題 4 リプロダクティブヘルス・ライツ 1) リプロダクティブヘルス・ライツとは 2) 女性のリプロダクティブヘルス・ライツの課題 5 母性看護のあり方 6 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定	専任教員
4 5	母性看護の対象を取り 巻く社会の変遷と現状	1 母性看護の歴史の変遷と現状 1) 我が国における母性看護の変遷 2) 母性看護にかかわる指標とその推移 3) 母性看護にかかわる法律 4) 母性看護にかかわる施策 2 母性看護の提供システム 1) 母性看護にかかわる機関 2) 母性看護に携わる職種	非常勤講師
6 7 8 9 10	女性のライフステージ 各期における看護	1 ライフサイクルにおける女性の健康と看護 1) 女性の身体及び健康問題の変化 2) 女性のライフサイクルに応じた身体機能の変化 3) ライフサイクル各期に共通する看護 2 思春期の健康と看護 1) 思春期女性の特徴 2) 健康問題と看護 3) 思春期女性への看護の視点 3 性成熟期の健康と看護 1) 性成熟期女性の特徴 2) 健康問題と看護 4 更年期・老年期の健康と看護 1) 更年期・老年期女性の特徴 2) 健康問題と看護	専任教員

11 12	リプロダクティブヘル スケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 性感染症とその予防と看護</li> <li>2 人工妊娠中絶と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 人工妊娠中絶の現状</li> <li>2) 人工妊娠中絶の概要とその影響</li> <li>3) 人工妊娠中絶時の看護</li> </ul> </li> <li>3 性暴力、児童虐待の実際と看護</li> </ul>	専任教員
13 14 15	母性看護に必要な看護 技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 母性看護における看護過程</li> <li>2 情報収集とアセスメント技術</li> <li>3 母性看護に使われる看護技術</li> <li>4 事例展開</li> </ul>	”
	学科試験		

教 科 目 名	母性看護方法論 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：周産期（妊娠期・分娩期）における母子の生理的特性を理解し、健康の保持・増進にむけた看護の実際を学ぶ。</p> <p>目標：1) 妊娠期の身体的変化、心理・社会的な変化を理解する。  2) 妊娠期の正常な経過を理解する。  3) 妊娠期に必要な妊婦と家族への看護を理解する。  4) 分娩期の身体的変化、心理・社会的な変化を理解する。  5) 分娩期の正常な経過を理解する。  6) 分娩期に必要な産婦と家族への看護を理解する。  7) 親役割の獲得、母子関係形成への支援方法を理解する。</p>
授業形式	講義 演習（シミュレーション・タスクトレーニング）グループワーク
成績評価方法	<p>学科試験</p> <p>演習参加度、授業態度・課題への取り組み等を総合的に判断し評価とする。</p>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学① 医学書院</li> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学② 医学書院</li> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ女性生殖器(成人看護学) 医学書院</li> <li>・パーフェクト臨床看護実習ガイド 母性看護 第2版 照林社</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠と事故防止から見た母性看護技術 第2版 医学書院 2018</li> <li>・母性看護学Ⅰ（概論）第2版 医歯薬出版, 2020</li> <li>・母性看護学Ⅱ（周産期各論）第2版 医歯薬出版, 2020</li> </ul>
メッセージ	<p>女性は「こどもを産み育む」というダイナミックな変化の入口に立ちます。妊娠や分娩による女性の心身の変化に関心を寄せ、五感を活用した授業展開になります。事例とともに、知識を用い、状況からの分析や推察、リフレクションの能力を高めたいと思っています。</p> <p>演習では体験しにくい「分娩期のケアの実際」とよりよいケアとはなにか皆さんと共に考えたいと思います。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	妊娠期の特性	1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性	専任教員
3 4	妊婦と胎児のアセスメント	3) 妊娠とその診断 4) 妊娠期に行う検査とその目的 5) 胎児の発育と健康状態の診断 6) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	
5 6	妊婦と家族の看護	6) 妊婦が受ける母子保健サービス 7) 妊婦の保健指導の実際 8) 親になるための準備教育	
7 8	妊娠期の技術演習	10) 妊婦健康診査の実際 (シミュレーション) ①妊婦の診断 (外診・問診・諸計測) ②保健指導の実際 11) 妊婦体験	〃
9 10	分娩の要素 分娩の経過	1) 分娩の三要素 2) 分娩の機序・産道通過の機序 3) 分娩経過	非常勤講師
11 12	正常経過の看護 分娩期看護の要点	5) 産婦と胎児のアセスメント ①健康状態について ②分娩経過・促進因子・阻害因子について ③心理・社会面について 6) 分娩各期の産婦と家族への看護	
13 14 + (0.5)	分娩期の技術演習	1) 分娩1期～4期のケアを考える。 タスクトレーニング(陣痛の観察方法、産痛の緩和) ・分娩I期～4期の看護(シミュレーション) 「分娩期のケアを考える」 状況設定に対する模擬患者に対し看護を考える ・陣痛の測定・児心音の聴取・腹部の観察・内診の介助・胎児心拍モニタリング・姿勢の工夫・リラクゼーション法(呼吸法・補助動作・圧迫法) 食事・睡眠への実践	専任教員
	学科試験		



教 科 目 名	母性看護方法論Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次 後期

学習目標	<p>目的：周産期（新生児期・産褥期）における母子の生理的特性を理解し、健康を保持増進するための看護を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新生児期の生理的特性を理解する。</li> <li>2) 出生直後から 24 時間以内/24 時間以降の新生児の看護を理解する。</li> <li>3) 新生児の日常生活の援助方法を習得する。</li> <li>4) 産褥期における心身の生理的特性を理解する。</li> <li>5) 産褥期の正常な経過を理解する。</li> <li>6) 産褥期に必要な褥婦と家族への看護を理解する。</li> <li>7) 親役割の獲得や児との関係性を促す援助を理解する。</li> </ol>
授業形式	講義・グループワーク 演習（シミュレーション・タスクトレーニング）
成績評価方法	<p>学科試験</p> <p>試験・演習への参加状況 参加態度・課題への取り組みを総合的に評価</p>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学① 医学書院</li> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ母性看護学各論 母性看護学② 医学書院</li> <li>・系統学講座 専門分野Ⅱ女性生殖器(成人看護学) 医学書院</li> <li>・パーフェクト臨床看護実習ガイド 母性看護 第2版 照林社</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護学Ⅰ（概論） 第2版 医歯薬出版, 2020</li> <li>・母性看護学Ⅱ（周産期各論） 医歯薬出版, 2020</li> <li>・根拠と事故防止から見た母性看護技術 第2版 医学書院 2018</li> <li>・ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院</li> <li>・周産期ケアマニュアル 立岡弓子 医学芸術社</li> <li>・新生児学入門 仁志田 博司著 医学書院</li> <li>・新生児の観察と看護技術 榎引美代子著 医歯薬出版</li> <li>・周産期の看護技術 榎引美代子著 医歯薬出版</li> <li>・母性看護学実習ガイド 堀内 成子著 照林社</li> <li>・写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ</li> </ul>
メッセージ	<p>妊娠や分娩の経過が産褥期や新生児期にさまざまな影響を及ぼします。母子は出生直後から様々な精神的な変化や身体の変化に適応しながら母子の関係性の獲得や児の養育技術を獲得する、その過程に対する看護を学びます。産褥期・新生児期における生理的の変化をよく理解しましょう。また、対象に合わせた技術を学習し身につけます。自己課題を明確にし、学習しましょう。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	産褥経過	1) 産褥期の身体的変化 ①産褥の定義 ②子宮の復古と悪露 ③乳汁分泌 ④月経の発来 ⑤全身の変化 2) 産褥期の心理・社会的変化 ①産褥期の心理的变化 ②家族の心理的变化 ③ソーシャルサポート	専任教員
3 4	褥婦のアセスメント	1) 産褥経過の診断 ①退行性変化 ②進行性変化 ③その他の変化 2) 褥婦のアセスメント ①基礎的情報 ②褥婦の身体の状態 ③生活パターンとセルフケアレベル ④不快症状と対処能力 ⑤心理的变化 ⑥関係性・役割獲得 ⑦褥婦を取り巻くサポート態勢	
5	褥婦と家族の看護	1) 身体機能の回復及び進行性変化への看護 ①活動と休息 ②栄養 ③排泄 ④清潔 ⑤乳房ケア ⑥産後に経験する疼痛への対処 2) セルフケア能力を高める看護 3) 児との関係確立への看護 4) 育児にかかわる看護 ①児の栄養 ②児の清潔 ③児の健康管理 5) 家族関係再構築への看護 ①上の子どもへの対応 ②夫またはパートナーへの対応 6) 退院後の看護 ①産後の生活調整 ②育児不安 ③産後の健康診査と子育て支援 ④職場復帰	

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
6 7	産褥期の技術演習	技術演習 1) 産褥日数に応じた褥婦の観察 退行性変化・進行性変化の観察 2) 授乳時の観察、指導方法 抱き方、ポジショニング 等	専任教員
8	新生児の生理	新生児とは 1) 新生児の定義 2) 新生児の分類 3) 新生児の機能	〃
9 10	新生児のアセスメント	1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント ①基礎情報の収集 ②子宮外生活への適応状態 ③新生児の生活	
11 12 13	新生児の看護	1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護 ①退院までの経過観察と看護 ②身体の清潔 ③臍部の処置 ④新生児の栄養 ⑤新生児と医療事故、医療安全、感染予防 3) 生後1か月健康審査に向けた退院時の看護 ①退院診察 ②養育環境の確認 ③2週間健診、1ヶ月健診 1) 親役割への移行 2) 母子・家族への看護	
14 15 (0.5)	新生児の技術演習	技術演習 1) 新生児の健康診査 バイタルサインの測定、全身観察 2) 新生児の日常生活の援助 抱っこ、おむつ交換、更衣、沐浴、授乳	〃
	学科試験		

教 科 目 名	母性看護方法論Ⅲ	単位数（時間数）	1 単位 （15 時間）
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	3 年次 前期・後期

学習目標	<p>目的：周産期における母子に起こりやすい異常の要因を理解し、母子や家族に対する看護を学ぶ。</p> <p>目標：1) 周産期に起こりやすい母子の異常を理解する。  2) 周産期の起こりやすい異常の要因を理解する。  3) 周産期における異常の予防と早期発見の重要性を理解する。  4) 周産期における異常の基本的看護を理解する。  5) 周産期の異常が母子や家族に及ぼす影響を理解する。  6) 母子とその家族への看護を理解する。</p>
授業形式	講義
成績評価方法	学科試験
教科書・参考書	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） パーフェクト臨床看護実習ガイド 母性看護 照林社 参考文献； 母性看護学Ⅰ・Ⅱ（妊娠・分娩・産褥・新生児）医歯薬出版
メッセージ	<p>周産期の異常は家族の誕生を心待ちにしていた母親や家族に動揺を与えます。また、日常生活を変更せざるを得なくなり、希望していた児の喪失や予期せぬ状況にいる家族に対し看護を提供します。治療や処置に伴う精神的苦痛や家族の苦悩を十分に理解し、異常の早期発見の重要性や緊急的な処置の基本的な方法について学びます。</p> <p>正常な周産期の学習を基盤とし、周産期の異常について学ぶ科目であるため、正常な妊娠・分娩・産褥期の経過の基本的な知識が前提として求められます。わかりにくい点は、正常な周産期の学習に戻り学習をしましょう。国家試験にも出題する分野でもありますので、基本的な看護の理解を深めましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	生殖に関わる健康問題 と看護総論	1) 出生前からのリプロダクティブヘルス ・ 遺伝相談 (出生前診断を受ける人への看護) ・ 不妊治療と看護 2) ハイリスク母子と家族への看護	非常勤講師
2	妊娠期の健康問題に対 する母子・家族への看護	1) ハイリスク妊婦の看護の基本 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患のある妊婦と家族の看護 妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、糖代謝合併妊娠 4) 切迫流早産の妊婦と家族への看護 5) 常位胎盤早期剥離の看護 6) 前置胎盤の妊婦と家族の看護 7) 若年妊婦・後年妊婦と家族の看護 8) 多胎妊婦と家族の看護 9) 未婚妊婦・再婚妊婦と家族の看護	〃
3 4	分娩期の健康問題に対 する母子・家族への看護	1) 異常分娩時の産婦と家族への看護 (前期破水、異常陣痛、帝王切開、産科出血) 2) 胎児機能不全・新生児仮死が予測される時の産 婦・家族への看護	〃
5 6	産褥期の健康問題に対 する母子・家族への看護	1) 子宮復古に異常がある褥婦への看護 (子宮復古不全、産褥熱) 2) 乳房トラブルがある褥婦への援助 (乳頭トラブル、乳腺炎) 3) メンタルヘルスに問題のある褥婦・家族への援 助 (マタニティブルーズ、産褥うつ) 4) 子を亡くした褥婦や家族への看護	〃
7	新生児期の健康問題に 対する母子・家族への 看護	1) ハイリスク新生児を持つ母親・家族の心理とその 看護 ・ 早産児・低出生体重児とディベロップメンタル ケア ・ 先天異常のある児と母親・家族の看護 2) 早期新生児期に異常が出現した児と家族への 看護 ・ 高ビリルビン血症 ・ 新生児一過性多呼吸 ・ 呼吸窮迫症候群 ・ 胎便吸引症候群 ・ 新生児ビタミンK欠乏症 ・ 低血糖症	〃
	学科試験		

教 科 目 名	母性看護学実習	単位数（時間数）	2 単位（90 時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3 年次

学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>目的：1) 妊婦・産婦・褥婦・新生児の特性を理解し、健康の維持増進に向けた看護を考える。</p> <p>2) 富良野市での子育て支援事業を理解し、切れ目のない母子への支援の実際を知る。</p> <p>目標：1) 妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族を統合的に理解できる。</p> <p>2) 妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の健康の維持増進への看護援助を実践する。</p> <p>3) 妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過を理解し、母性の特性を考慮した看護援助ができる。</p> <p>4) 母性看護の役割と責任について理解し、母子とその家族を支える社会システムについて考える。</p> <p>5) 学習者として責任ある行動と自ら学ぶ姿勢を身につける。</p>
実習施設	富良野協会病院、富良野市保健センター、助産所あゆる
実習方法	<p>病棟実習：妊婦・褥婦・新生児を受け持ち、必要な看護を展開する。</p> <p>富良野市保健センター実習： 母子保健事業を見学または参加し、事業の実際を知ることで、切れ目のない母子への支援をすることの意義を考える。</p> <p>助産所実習： 有床助産所での対象者への看護の実際を見学し、地域で働く助産師と母子との関わりの実際を学ぶ。</p>
成績評価方法	「母性看護学実習 実習評価表」に基づき評価をする。

教 科 目 名	精神看護概論 I	単位数(時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標	<p>目的：心の働きを学びながら、精神医療の歴史から現代社会を概観し、心の健康について考える。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の概要を学び、看護の機能・役割を学ぶ。</li> <li>2. 精神保健医療・患者処遇の歴史とその変遷を概観し、人間の尊厳や人権の大切さがわかり、精神障害者に関する法・処遇を理解する。</li> <li>3. 精神障害者とその家族について理解できる。</li> <li>4. 心の働きや心の健康の基本的な考え方がわかり、心を見る視点を理解する。</li> <li>5. 人間の心と社会的な成長発達について理解する。</li> <li>6. 心の発達とそれに寄与するさまざまな因子や関係、および発達過程での心の問題が理解できる。</li> <li>7. ライフサイクル別における精神発達の危機を理解し、その対応や支援について考えることができる。</li> <li>8. 精神障害者の変遷を学習し、自己の心の動きを感じながら、自己の精神障害に対する捉え方や偏見について気づくことができる。</li> </ol>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に講義が中心となるが、適宜グループワークや全体での意見交換を設定する。</li> <li>・説明だけでは理解しがたいこと、印象付けたい場合には視聴覚教材を活用する。</li> <li>・予習、復習の意識付けと自己の学習スタイルを構築できるように、課題や小テストを活用する。</li> </ul>
成績評価の方法	<p>評価については、講義出席時間（総時間数の2／3以上）</p> <p>1 試験（100点）で試験結果の6割以上</p> <p>受講態度・課題提出状況などを総合的に判断し評価する。</p>
教科書・参考書	<p>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社</p> <p>参考資料（適宜配布） 関連科目の教科書や講義資料</p>

メッセージ	<p>精神看護学は、狭義の意味の精神科看護と思われがちであり、一般的に精神障害者・精神疾患を持つ人のための特殊な看護であると考えられています。しかしながら、現代社会はストレス社会となり、精神に疾患・障害がある無しに関わらず、心を病む人々が急増している状況であるため、近年では心の健康の回復・維持・増進が重視され、この精神看護の範囲は精神科のみならず、広義の意味で心の健康を支える役割を担っています。そのため、この学習をする中で、精神障害や精神看護について正しく理解してほしいと考えます。</p> <p>人々が心の健康を保ち、健やかに生活を送られるように看護できるための知識と技術を学習しつつ、自分自身や身近な人を大切に思うこと・身近な人と自身に関心を持ち、自ら心のケアができるようになってもらいたいと願い、そのための基盤となれば良いと考えています。</p>
-------	--

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	精神保健医療福祉の歴史	1) 精神医療の歴史 (1) 諸外国における精神医療の歴史と現在 (2) 日本における精神医療の歴史	専任教員
2	精神（心）のとらえ方	1) 脳の構造と認知機能 2) 精神（心）の構造と働き	
3 4	精神（心）の発達に関する主要な考え方	1) エリクソンの漸成的発達理論 2) その他の理論	〃
5	家族と精神(心) の健康	(1) 家族とは (2) 夫婦関係 (3) 親子関係 (4) 家族のライフサイクル (5) 家族システム	〃
6	精神（心）の危機状態と精神保健	(1) 危機とは何か？：危機理論・危機モデル (2) ストレスとコーピング (3) 適応と不適応(適度なストレス状況とは) (4) セルフマネジメント	
7	精神保健医療福祉の現在の姿	精神保健で扱われる現象	
8	学科試験		



教 科 目 名	精神看護概論Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 後期

学習目標	<p>目的：心の成長発達地域と社会での心の影響について理解し、心の健康の維持、増進さらに回復に対する支援の基本的な知識を学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健の概要を学び、看護の対象・目的を理解する。</li> <li>2. 学校におけるストレス関連の症状や問題行動について理解できる。</li> <li>3. 職場のメンタルヘルスが重要視される理由を知り、地域における健康づくりのあり方を理解する。</li> <li>4. 行政と地域の様々な活動との連携による心の健康づくりを理解できる。</li> <li>5. 社会構造や生活様式の変化により現代社会特有の精神保健上の問題の実情と社会的背景を学ぶ。</li> <li>6. リエゾン精神看護専門看護師の具体的な活動内容を理解する。</li> <li>7. 司法精神医療の位置づけを理解し、多職種連携における看護師の役割を理解する。</li> <li>8. 災害時の世親保健医療活動の目的と方法を理解する。</li> </ol>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義が中心となるが、適宜グループワークや全体での意見交換を設定する。</li> <li>・ イメージができるよう視聴覚教材を活用する。</li> <li>・ 予習・復習の意識付けをはじめ、自己の学習スタイルを構築できるように、課題や小テストを活用する。</li> </ul>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 試験・1 レポート（50 点・50 点）で合計の 6 割以上</li> <li>・ 授業態度・課題提出状況などを総合的に判断に評価する。</li> <li>* 出席時間数が授業時間の 2/3 に満たない場合は、原則試験を受けることはできない。</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</li> <li>・ 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社</li> <li>・ 看護のための人間発達学 医学書院</li> <li>・ 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メヂカルフレンド社</li> <li>* 参考資料（適宜配布） 心理学教科書や関連する講義資料など</li> </ul>

メッセージ	<p>本校に入学する学生達もストレス社会で育ってきた状況であり、現在に至るまでも精神保健と関わりがあったが実感していることが少ない。また、今後必要とされる社会地域の精神保健に関心をもつ必要性を感じている。家族形態・機能も変化しているため、昔ながらの生活体験が少なく、社会の変化に伴った生活体験をしながら成長してきているためか、現代の若者特有の精神的な脆さを感じます。そのため自分の心の在りようや心の健康についても考える機会としてほしいと考えます。</p> <p>現代社会の構造がもたらす社会病理現象のうち、精神保健で取り扱う問題を知り、すべての人が精神保健を必要とし、誰もが問題をもつ対象になり、その当事者への予防や対応を地域社会がどのように担っているか再発見してほしい。</p> <p>専門看護師の活動で、リエゾン精神看護活動の役割、司法精神医療の変化と役割、近年増加している災害時の精神看護の役割を学び活躍の場をイメージでき、専門性の高い看護師を目指してほしい。</p>
-------	---

回	授業主題	授業内容	講師
1 2	1. 現代社会における精神保健	1) 精神保健とは (1) 精神保健で扱われる現象 (2) 精神的健康の保持・増進としての精神保健 (3) 地域精神保健 (コミュニティ・メンタルヘルス)	専任教員
3 4 5	2. 暮らしの場と精神(心)の健康	1) 学校と精神(心)の健康 2) 職場・仕事と精神(心)の健康 3) 地域における生活と精神(心)の健康 4) 精神保健が関与する社会病理現象	〃
6 7	2. 現代社会と精神(心)の健康  3. 精神の病気を・障害をもつということ	1) 現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理 2) 精神看護の分野 ・精神看護とは ・精神看護の役割の広がり ・精神看護の専門性  1) 精神(心)を病むとはどういうことか 2) 精神障害と差別 3) 精神障害をもつ人はどのような事を経験し感じているか 4) 精神障害と共に生きる	非常勤講師

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
8 9  10 11 (0.5) 12 13	4. 日本の精神看護の発展	1) リエゾン精神看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リエゾン看護とは</li> <li>・リエゾン精神看護活動</li> <li>・リエゾン精神看護のケアの実際</li> </ul> 2) 司法精神医療と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・司法精神医療と司法精神看護</li> <li>・触法精神障害者の処遇としての司法精神医療</li> <li>・暴力被害者の支援としての司法精神看護</li> </ul> 3) 災害時の精神保健 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害とストレス</li> <li>・災害時の精神保健医療活動の基本</li> <li>・被災した精神障害者への支援</li> </ul> ※11回 : 45分授業	非常勤講師
14 15	4. 精神障害をもつ人を守る法・制度	1) 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院医療の形態</li> <li>・入院患者の処遇と権利擁護</li> </ul>	〃
	学科試験		

教 科 目 名	精神看護方法論 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	非常勤講師・専任教員	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：精神疾患・障害をもつ対象の症状および検査・治療について学習し、代表的な疾患や症状の理解に必要な知識と基本的な看護を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神疾患／障害の疾患概念／定義、病因、症状／状態、治療／支援などを理解できる。</li> <li>2. 精神疾患／障害の主な治療法について理解できる。</li> <li>3. 医療機関で行われている精神科リハビリテーションについてりかひできる。</li> <li>4. 精神障害をもつ人とのコミュニケーションの意味を理解する。</li> <li>5. 精神障害をもつ人への看護援助の基本的構造を理解できる。</li> <li>6. 精神疾患／精神障害の早期発見や治療のために求められる看護ケアについて理解できる</li> </ol>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義形式</li> <li>・ 参考資料の提供</li> <li>・ 課題の提供</li> <li>・ パワーポイントの活用</li> <li>・ グループワーク</li> <li>など</li> </ul>
成績評価の方法	<p>評価については、講義出席時間（総時間数の 2/3 以上）</p> <p>2 試験実施 各試験結果の 6 割以上</p> <p>受講態度・課題提出状況などを総合的に判断に評価する。</p> <p>試験比率について 精神疾患の診断 検査 治療 100 点試験 (50%)</p> <p>精神看護の実際 考え方 100 点試験 (50%)</p>
教科書・参考書	<p>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社</li> <li>・ 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メヂカルフレンド社</li> </ul>
メッセージ	<p>精神疾患をもつ対象に対する社会の偏見は根強いものがあるが、これまでの学習から精神疾患は自分とかけ離れたものではなく、身近なものであり生活習慣病となんら変わらなく正しく理解できれば怖くないということを理解してもらいたい。そして、様々な偏見の中でも、対象のたくさんの辛さを理解できる一人として看護してほしい。また、精神疾患・障害を正しく理解する人が増えることによって、社会の偏見を少しずつ減少させ、たとえ精神疾患・障害があるとしても、一人の人格を持った人間として今以上に人権擁護され、地域で安心して生活できる社会になるような働きかけの担い手になってほしい。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	1. 精神医療・看護の対象者	2) 精神（心）を病むとはどういうことか 3) 精神障害と差別 4) 精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているのか 5) 世親障害者と共に生きる	非常勤講師
2 3	精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査	1) 精神（心）の働きと精神症状・状態像 精神障害をもつ人の抱える症状 2) 精神科的診察 ・ 診察 ・ 一般検査・画像検査 ・ 心理検査	〃
4 5	主な精神疾患／障害	1) 精神疾患/障害の診断基準・分類 2) 主な精神疾患/障害 ・ 神経発達症群/神経発達障害群 ・ 統合失調症スペクトラム障害 ・ 双極性障害および関連障害群 ・ 抑うつ障害群 ・ 不安症群/不安障害群 ・ 強迫症および関連症群/強迫性障害および 関連障害群 ・ 心的外傷およびストレス因関連障害 ・ 解離症群/解離性障害群 ・ 身体症状症および関連症群 ・ 食行動障害および摂食障害群 ・ 睡眠-覚醒障害群 ・ 物質関連障害および嗜癖性障害群 ・ 神経認知障害群 ・ パーソナリティ障害群 ・ てんかん	〃
6 7	精神疾患の主な治療法	1) 薬物療法 2) 電気けいれん療法 3) 精神療法	〃

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
8	リハビリテーション療法	1) リハビリテーション療法 ・精神科リハビリテーション ・様々なリハビリテーション療法 ・精神科デイケア	非常勤講師
9 10 (0.5) 11	精神障害をもつ人と「患者—看護師」関係の構築	1) 精神障害をもつ人とのかかわり方 2) 精神障害をもつ人とのコミュニケーション 3) 精神障害をもつ人との関係の振り返り ・プロセスレコードの書き方 ・プロセスレコードによる振り返りの実際	専任教員
12 13 14 15	精神障害をもつ人への看護	1) 精神疾患/障害を持つ患者への看護 ・統合失調症 ・妄想性障害 ・双極性障害 ・うつ病 ・アルコール依存 ・認知症 2) 精神疾患/障害をもつ子どもへの看護 ・自閉性スペクトラム障害 ・注意欠如・多動性障害 ・強迫性障害 ・神経性やせ症摂食制限型 3) 身体疾患を合併している患者への看護	〃
	学科試験		

教 科 目 名	精神看護方法論Ⅱ	単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
担 当 者	非常勤講師・専任教員	講義学年・学期	2 年次 前・後期

学習目標	<p>目的：精神障害者がもつ諸問題を看護の視点からとらえ、看護実践に必要な知識と技術を学ぶと共に、自立回復に向けての生活支援のあり方を理解することができる。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の持っている力や障害および問題を正しく把握し、これらを基に必要な援助が導き出せる。</li> <li>2. 精神障害をもつ人の治療的環境と生活としての環境のあり方を理解できる。</li> <li>3. 治療的対人関係の意味とそれらが果たす役割を理解する。</li> <li>4. 看護過程でよく用いられる治療的技法を理解する。</li> <li>5. 精神障害をもつ人への地域支援の実際を制度とともに理解する。</li> </ol>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義形式                      ・ パワーポイントの活用</li> <li>・ 参考資料の提供            ・ グループワーク</li> <li>・ 課題の提供                  など</li> </ul>
成績評価の方法	学科試験、受講態度・課題提出状況などを総合的に判断に評価する。
教科書・参考書	<p>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社</li> <li>・ 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術                      メヂカルフレンド社</li> </ul>
メッセージ	<p>看護実践は、患者及びその家族と看護師との関係性が基盤である。さらに、医療・保健・福祉・関係各部門との連携がより良い看護を提供するためにも重要となる。現代においては、院内看護だけではなく、地域で生活をしながら医療・介護を受けられることが求められる社会となっている。対象が自分の力を最大限に発揮しながら、その人らしい生活を送ることができ、また、対象がより良い人生を送られるよう、対象中心の看護ができるために必要な基礎知識を習得し、実践へつなげる能力を養ってほしい。対象に必要な介入を行うことの大切さを学習し、言動は、その人の心を表現しているといわれることから、対象の意志を尊重し対象が自己決定できるように、言動の意味を考える姿勢を身につけてほしい。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	精神保健医療福祉の現在	1) 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院医療の形態</li> <li>・入院患者の処遇と権利擁護</li> <li>・自殺・自殺企図・自傷行為</li> <li>・攻撃的行動・暴力・暴力予防プログラム</li> <li>・離院</li> <li>・隔離・拘束</li> </ul>	専任教員
3 4	精神障害をもつ人への看護援助の展開	1) 精神障害をもつ人のセルフケアの援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケアとは</li> <li>・保健行動とセルフケア</li> <li>・オレムのセルフケア理論</li> <li>・オレム・アンダーウッドモデル</li> <li>・精神看護実践におけるセルフケア理論の適用</li> </ul>	非常勤講師
5 6 7	精神障害をもつ人への看護援助の展開	2) 精神障害をもつ人のセルフマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>・セルフケアマネジメントの背景</li> <li>・セルフマネジメントのための疾病教育</li> <li>・服薬自己管理</li> <li>・当事者によって編み出されたセルフマネジメント</li> </ul>	〃
8 9	精神障害をもつ人への看護	1) 精神科病棟における事故防止・安全と倫理的配慮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科看護における安全管理</li> <li>・病棟環境の整備</li> </ul>	〃
10 11 12 13 (0.5)	精神障害をもつ人への看護援助の展開	1) 看護援助の基礎構造(看護過程) <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護過程の展開</li> <li>・精神看護におけるアセスメントと看護計画</li> </ul>	専任教員
14 15	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	1) 地域生活の再構築と社会参加 2) 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野地域の実際</li> </ul> 3) 精神障害をもつ人をケアする家族	非常勤講師
	学科試験		



教 科 目 名	精神看護実習	単位数(時間数)	2単位 (90時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3年次

学習目標	<p>目的：精神に障害をもつ対象の看護の実際および地域での生活を知り、精神に障害を抱える対象がその人らしくその問題解決ができるようにかかわり、精神看護について学ぶ。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の障害が、対象の心理状態や日常生活にどのように影響しているのかを理解する。</li> <li>2. 対象の抱える問題解決のために必要な看護援助を実践する。</li> <li>3. 対象を一個人として尊重するかかわりを通し、患者－看護師関係のあり方について理解する。</li> <li>4. 精神科病院・病棟の環境や管理の方法と治療・看護の関連を理解する。</li> <li>5. 精神科通所施設において、地域で生活する利用者の社会参加の実態にふれることを通じて、精神障害と生活状況との関連についての理解を深めながら、精神障害者の地域生活支援の方法や要点について学ぶ。</li> <li>6. 学習者としての基本的な態度を有し、実習に取り組むことができる。</li> </ol>
実習施設	<p>サポートステーション すきっぷ 富良野地域生活センター ラベンダーの郷 デイ・ナイト・センター ふくろう 北の峰病院</p>
実習方法	<p>サポートステーション すきっぷ：就労継続支援 B 型を見学または参加し、地域の知的障害者の活動を学ぶ</p> <p>富良野地域生活センター：地域の障害者の様々な相談や共同生活援助を見学し、法律や社会資源について学ぶ。</p> <p>ラベンダーの郷：就労継続支援 B 型を見学または参加し、地域の精神障害の活動を学ぶ。</p> <p>デイ・ナイト・センター ふくろう：デイ・ナイト・ケアを見学または参加し、社会復帰に向けたリハビリテーションを学ぶ。</p> <p>北の峰病院：精神科病院で行われている治療を見学し、精神疾患をもつ患者を受け持ち、必要な看護を展開し実際に学ぶ。</p>
成績評価の方法	<p>評価については、規定時間 3/4 (67.5 時間) 以上出席し、指定された日時に、指定された実習記録が提出された者を評価対象とする。</p> <p>「精神科看護学実習評価」に基づいて評価する。</p>

教 科 目 名	看護研究の基礎	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	2 年次 前期

学習目標	<p>目的：看護研究の概念、研究の方法、統計の概念について学修し、研究的態度の重要性について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究における文献検索の重要性、方法を理解する。</li> <li>2. 研究における統計の活用方法の基礎を理解できる。</li> <li>3. ケーススタディの具体的な進め方を理解する。</li> </ol>
授業の形式	講義 演習
成績評価の方法	学科試験
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 「看護情報学」 医学書院
メッセージ	<p>「看護は専門職」です。専門職には、既存の知識・技術の最大限の活用と新たな知見と技術の発見が課せられています。そのため、専門職看護師を職業としていく私たちは学術的に物事を思考していかなければなりません。その思考そのものが研究的態度です。専門職業人看護師として、生涯にわたり研究的態度をもち、看護の質の向上に寄与できるよう、看護研究の基礎的知識・方法を学びます。</p>

回	授業主題	授業内容	担当
1	看護研究の必要性 研究の方法	1. 研究、ケーススタディとは 2. 看護における研究の意義 3. 研究にいたる手順、テーマにたどり着くまで（テーマ決め、ことば調べ） 4. 研究のプロセスと具体的方法	専任教員
2	研究計画書の書き方  文献検索	1. 研究計画書とは 2. ケーススタディにおける計画書の意義 3. 3年次に取り組むケーススタディの計画書  1. 文献検索の意義と活用方法 2. 文献検索の方法（パソコン使用あり）	〃
3 4	研究と統計	1. 研究と統計の関係 2. データの意味と集め方 3. 論文の作成方法 4. 研究の進め方、計画、調査方法、解析方法 5. 準備と実施 6. 集計と解析 7. 報告と活用	非常勤講師
5～ 7	関数と統計 (1)～(4)	1. 統計の概念について 2. 算術平均、標準偏差 3. t検定の利用 4. F検定の利用 5. $\chi^2$ 検定の利用	〃
	試験		

教 科 目 名	看護研究の実際	単位数（時間数）	1 単位（30 時間）
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	3 年次 通年

学習目標	<p>目的：臨地実習で看護体験した事例を研究的視点で論文作成し、プレゼンテーションの重要性を理解する。</p> <p>目標</p> <p>1. ケーススタディの具体的な進め方を理解する。</p> <p>2. プレゼンテーション能力を養う。</p>
授業の形式	講義 演習
成績評価の方法	ケーススタディの発表により評価を行う
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 別巻 「看護情報学」 医学書院</p> <p>(参考書)</p> <p>看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社</p>
メッセージ	<p>「看護は専門職」です。専門職には、既存の知識・技術の最大限の活用と新たな知見と技術の発見が課せられています。そのため、専門職看護師を職業としていく私たちは学究的に物事を思考していかなければなりません。その思考そのものが研究的態度です。</p> <p>専門職業人看護師として、生涯にわたり研究的態度をもち、看護の質の向上に寄与できるよう、看護研究の基礎的知識・方法を学びます。</p>

回	授業主題	授業内容	担当
1	クリティークと倫理的配慮	1. クリティークとは 2. 研究における倫理的配慮	専任教員
2, 3	パワーポイントの作成方法とプレゼンテーション	1. 形、色の意味とデザイン能力についての実践	非常勤講師
4~8	ケーススタディの作成	各担当教員の指導のもとケーススタディを作成する	専任教員
9	パワーポイント作成	発表用パワーポイントを作成する	〃
10~15	発表（2日間）	発表の実際と他者のケース内容をクリティークする	〃

教 科 目 名	看護管理と医療安全	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間)
担 当 者	専任教員・非常勤講師	講義学年・学期	3 年次 前期・後期

学習目標	<p>目的：効率的、効果的な看護サービスを提供するための看護管理の概念を学び、医療機関における看護部門の役割と看護管理者の責務と役割について理解する。又、安全な医療の提供に不可欠である医療事故防止について医療安全教育に基づいた知識を養い、看護における「安全の確保」の思想を育む。</p> <p>目標：1. 管理の概念及び看護管理の基礎的知識を理解する。  2. 看護部門における看護管理者の責務と役割について理解する。  3. 看護業務と医療事故の現状を知り、危険予知の重要性と事故防止対策を考える。  4. 事例を通し、要因とその分析を行い、事故防止の基本的知識、態度を身につける。</p>
授業の形式	<p>授業及びグループワーク</p> <p>演習 事事故例</p>
成績評価の方法	<p>筆記試験</p> <p>グループワーク・レポート・参加度等も加味する</p>
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座  「看護管理」看護の統合と実践【1】 医学書院</p> <p>系統看護学講座  「医療安全」看護の統合と実践【2】 医学書院</p> <p>(参考書)</p> <p>「看護学概論」基礎看護学【1】  必要に応じプリントを配布</p>
メッセージ	<p>看護の質と安全確保に向けた活動について、現在、実際に病院・施設において行われている医療、看護の質の確保と医療安全の視点から講義します。</p> <p>医療安全の確保には、個々の医療従事者の安全強化と医療システムの双方の強化が求められます。リスク感覚を高め、危険を認知する能力が高められるよう、積極的な学びをしましょう。</p> <p>看護の質の確保のための看護部門の責務と役割、医療チームの一員として役割を理解し、個々の責任としてどうあるべきかを学びましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
1	看護管理の基礎的知識	1. 看護管理学の定義・概念構成・基本的要素 看護ケア・サービスのマネジメント 看護のマネジメントが行われる場 (多職種との連携・協働)	専任教員
2	看護ケアのマネジメント	1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利 3. 安全管理 4. チーム医療	非常勤講師
3	看護業務の実践 看護職の キャリアマネジメント	1. 看護業務の実践 (日常業務のマネジメント) 2. 日常業務のマネジメント 3. 看護職のキャリア形成 4. タイムマネジメント 5. ストレスマネジメント	〃
4	医療事故の概念	1. 医療事故、ニアミス、医療過誤の定義 2. ヒューマンエラーと医療事故 3. 医療事故の種類 4. 事故発生メカニズム	専任教員
5 6	医療事故防止のための 知識	1. ヒューマンファクターとエラーの分類 2. 人間は誤るもの～なぜ誤るか 3. 人間の情報処理の特徴 4. エラー防止の考え方 ヒューマンエラー対策案	〃
7	組織としての看護サービ スマネジメント	1. 看護サービスのマネジメント 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護サービス提供のしくみづくり	非常勤講師
8 9 (0.5)	看護サービスのマネジメ ントと評価	1. 人材のマネジメント 2. 施設設備環境・物品のマネジメント物品 3. 情報のマネジメント 4. 組織におけるリスクマネジメント 5. 医療におけるサービスの質の評価	〃

回	授 業 主 題	授 業 内 容	担 当
10	リスクマネジメント の基本理念	1. 責任と倫理規定 2. 看護におけるリスクマネジメントとは 3. 看護実践の場で行われているRM取り組み	非常勤講師
11 12	危険予知訓練（KYT） 看護のインシデント 事例の要因分析	1. 危険予知 演習～KYT 2. 事故分析：事例の紹介 演習～事例分析（RCA）	〃
13	マネジメントに必要な知識と技術	1. 組織とマネジメント 2. リーダーシップ（定義・理論） 3. 組織の調整	専任教員
14	看護を取り巻く諸制度	1. 看護管理に関連する法律 2. 看護と専門機関・職能団体	〃
15	看護を取り巻く諸制度	1. 看護職の法的責任 2. 看護職の職業倫理 3. 教育制度	〃
(0.5)	学科試験		

教 科 目 名	災害看護と国際協力	単位数 (時間数)	1 単位(15 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	3 年次 前期

キーワード	災害対策の原則 災害医療 災害救護 被災社会 トリアージ(看護の視点からのトリアージ) 災害時の健康被害 国際看護 世界の健康(MDG s)
学習目標	目的：看護の対象は「人間」である意味を理解し、世界で起こっている健康に関する諸問題から看護の役割を考える。又、災害により機能不全に陥った社会を知り、災害時の保健、医療ニーズを理解し、被災の場や被災者に必要とされる医療、看護の基礎的知識、技術を学ぶ。 目標：1. 災害の種類と災害がもたらす被災社会の構造について理解することができる。 2. 災害医療・看護の概念・目標を理解する。 3. 災害時の保健・医療ニーズについて理解する。 4. 災害時の必要な知識、技術を身につける。 5. 看護の対象が「人間」であることを理解し、国際的視野に立つ意味を理解できる。 6. 世界で起こっている健康問題を理解し、看護の役割を考えることができる。
授業の形式	授業と演習 災害看護の授業では演習や実際の活動状況などを紹介しながら進める。災害現場を想定した事例で、トリアージの基本・方法と既習の救急法、応急手当の基礎知識の復習をしていきたい。 国際協力では講義中心となるが、映像なども紹介をしていきたい。
成績評価の方法	授業・演習の参加態度、筆記試験によって評価を行う。
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 統合分野「災害看護学・国際看護学」看護の統合と実践[3] 医学書院 必要に応じプリントを配布
メッセージ	看護の対象が「人間」であることを理解すると、看護は国際的視野に立つ必要性がおのずとわかることだと思います。国際的な視野に立ち、人々の健康を脅かす諸問題を取り上げ、看護の役割を考えていきましょう。また、国際看護と国際協力が同意語ではないことも理解しましょう。 国内外に多くの災害が発生している中、災害への関心が高まっています。同時に災害時の医療活動への社会の期待も大きくなっています。看護を目指すものとして災害時の対象理解と看護の役割を考えていきましょう。



回	授業主題	授業内容	担当
1	災害医療・災害看護の概念	1. 災害救護医療活動の歴史と最近の災害 2. 災害医療対策 1) 災害に関する法律・制度及び関係機関の支援体制 2) 災害医療拠点病院の役割 3. 災害の種類と災害がもたらす被災社会の構造 1) 災害の概念・災害の種類 2) 被災社会の構造と疾病構造 3) 災害看護の対象、被災者の特性 4) トリアージ	非常勤講師
2	災害サイクル・サイクル別看護活動	1. 災害サイクルの特徴 1) 災害サイクルとは 2) 災害サイクル別看護活動 2. 避難所、仮設住宅での看護 手洗い、消毒等の感染予防対策 3. 他職種との連携や社会資源の活用	〃
3	派遣医療チームと看護師の役割  地域における災害対策と医療・看護活動	1. 災害援助活動の役割 2. 派遣医療チームと看護師の役割 DMAT 3. 過去の被災地における看護師の活動報告 4. 防災対策 災害対応マニュアル 災害訓練の方法 日常における災害点検 地域との協働体制	〃
4 5	集団災害医療とトリアージの方法	演習 トリアージの基本・方法 応急処置、救急搬送 多職種との連携	〃
6	世界の健康問題-1	1. 国際看護の意味 1) 看護の対象とは 2) 異文化学科試験によって評価理解 2. 世界の「健康」を取り巻く状況 1) MDG s	〃
7	世界の健康問題-2 国際協力	1. 世界の「健康」を取り巻く状況 1) 国際社会とジェンダー 2) その他 2. 国際協力 1) 国際看護と国際協力 2) 日本の国際協力 3) プライマリーケアとは 4) 国際救援	〃
8	学科試験		

教科目名	統合技術論	単位数(時間数)	1 単位・30 時間
担当者	専任教員	講義学年・学期	3 年次・前 / 後期

学習目標	<p>目的：多重課題のなかで、優先順位の判断や看護技術を統合する思考を養い臨床実践をイメージ化する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の医療や医療保険（診療報酬）の仕組みが理解できる。</li> <li>2. 医療機器の取り扱い、管理方法が理解できる。</li> <li>3. 患者の状況に応じた問題解決、判断ができる。</li> <li>4. 複数患者の看護優先度が判断でき、時系列の整理ができる。</li> </ol>
授業の形式	<p>講義、演習で展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療機器の操作と事故防止 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 輸液ポンプ、シリンジポンプ技術演習</li> </ol> </li> <li>2) 事例展開（個人・グループ） <ol style="list-style-type: none"> <li>①事例学習（4 事例）</li> <li>②複数受け持ち患者の行動計画作成</li> </ol> </li> <li>3) 事例患者の状況に応じた問題解決・判断</li> </ol>
成績評価の方法	筆記試験(100)にて評価を行う。
教科書・参考書	<p>テキスト指定なし</p> <p>随時、プリント配布</p>
メッセージ	<p>多くの看護場面では複数の患者を受け持ち、それぞれの患者の病態、その日の症状・指示、そして患者のニーズ等を把握して看護を展開していきます。また予想のできない事態も起こることがあります。看護者として、その場で起こっていることを的確に判断し、ケアをしていくことが要求されます。さらに、患者の安全が何よりも優先されます。</p> <p>この单元では、看護問題解決のためのケアを、ある一日を想定し実施します。一日のケアを時系列で計画し「何を見るべきなのか」「何が優先されることなのか」「なぜ、そのことが要求されるのか」などを考えながら演習を主体に進めていきます。単に、指示されたことをするのではなく、看護的な判断や看護者としての倫理も考えながら学んでいきます。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1	授業 OR 事例学習 OR 事例学習①	1. 事例学習について、事例紹介 2. 事例学習	専任教員
2	事例学習①	1. 事例学習  (課題提出あり)	
3	事例学習②	1. 事例学習  (課題提出あり)	
4 5	医療機器の取り扱い 輸液ポンプ/ シリンジポンプ	1. 輸液ポンプの使用方法、適応、留意点について 2. シリンジポンプの使用方法、適応、留意点について 3. 実際の操作 (DVD 視聴、演習)	
6	事例学習③	1. 事例学習  (課題提出あり)	
7	事例学習④	1. 事例学習  (課題提出あり)	
8	現在の病院を取り 巻く医療の現状と 課題	1. 診療報酬、入院基本料について 2. 診療報酬の実際 3. SPD 方式について	
9 (0.5)	ケア提供の意味	1. 協働と連携、アサーティブネスとは	専任教員
10	平等な質の看護	1. 「平等な質の看護」とは 2. 看護方式	
11	複数受け持ち 行動計画	1. 複数受け持ち患者の行動計画を立案する (課題提出あり)	
12	申し送りの方法	1. SBAR 2. 統合技術論分野における国試対策	
13 14	行動計画、 報告内容の実践 (演習)	1. 複数受け持ち時の看護、病態アセスメント、 優先順位	
15	まとめと筆記試験	1. まとめ 2. 筆記試験	

教 科 目 名	統合実習	単位数（時間数）	3単位（90時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	3年次

学習目標	<p>目的：既習の学習を統合させ、臨床実務に即したチーム医療、患者管理、医療安全等を踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を認識できる</p> <p>目標：1. 病院・病棟の看護管理の実際を知ることができる  2. 看護チームの機能やチームの一員としての役割について理解できる  3. 複数患者の看護を優先順位や安全性を考慮して実践できる  4. 自己の看護観を深め、社会人としての課題を明確にできる</p>
実習施設	富良野協会病院、ふらの西病院、市立芦別病院
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習病棟で患者を二人受け持ち、複数受け持ちを展開しながら、平等な質の看護を考え実践する。</li> <li>・看護チームの一員としての役割について理解看護管理について理解を深める</li> </ul>
成績評価方法	「統合実習 実習評価表」に基づき評価を行う。